ダイアグチェッカー

取扱説明書（保証書付）

HCK-DMZ

株式会社 日立オートパーツ＆サービス

このたびは、ダイアグチェッカーHCK-DMZをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品の十分な活用と安全なご使用のために、取扱説明書はいつも手元におき、よくお読みいただいたうえでご使用ください。

もくじ

安全上のご注意……1〜3
使用上のご注意……4
製品の特長……5
構成部品一覧表……6
本体各部の名称と働き……7
仕様
1. 一般仕様……8
2. 対応車両……8
3. 拡張機能……8
4. 診断項目……8

ご使用になる前に
1. DTC（故障コード）の構成……9
2. 日付／時刻設定……10〜11
3. その他……11

DTC（故障コード）の読み取り・消去
1. DTC（故障コード）の読み取り……12〜16
2. DTC（故障コード）の消去……17〜18
3. DTC（故障コード）の印刷……18
4. フリーズフレームデータの表示……19
5. フリーズフレームデータの印刷……20
6. DTC（故障コード）、フリーズフレームデータの保存……20〜21
7. 保存データの表示……21〜22
8. 保存データの削除……23〜24

作業サポート
1. 急速TAS学習クリア……25〜27
2. CVTフルード劣化度確認……28〜29
3. エア抜き／アキュムレータ0ダウン……29〜33
4. センサキャリブレーション……33〜34
5. OPDSユニット初期化……35〜36

グローバルOBDⅡ
1. DTC（故障コード）の読み取り・消去……37〜38
2. レディネスコード／データモニタ表示……39〜43

エンジンシステム診断
1. エンジンシステム診断表示……44〜45
2. データ保存……45〜46
3. 印刷……46
4. 保存データ削除……47

PC接続
1. 診断データをPCで利用……48〜49
2. パススルー機能……50

印刷例……51〜52
保守管理
1. プリンター用紙のセット……53〜54
2. リムーバブルディスクの初期化……55
3. その他……55

故障かな？という場合に……56
ホームページのご案内……57
保証規定……58
保証書……59
お問い合わせ先……60

安全上のご注意(必ずお守りください。)

取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

■表示内容を無視して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の絵表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。
(下記は絵表示の一例です。)

⚠	この絵表示は、注意(警告を含む)しなければならない内容です。
⃠	この絵表示は、禁止(やってはいけないこと)の内容です。
❗	この絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意(必ずお守りください。)

⚠ 警告

ケーブルに足を引っかけて転倒しないように注意する
けがの原因となります。

ギアがパーキング(MT車の場合ニュートラル)になっていることを確認する
測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。

サイドブレーキが確実に引かれていることを確認する
測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。

小さいお子様の手の届かない場所で使用、保管する
事故やけが、感電の原因となります。

作業サポートは、対象車両の整備マニュアルにより作業内容を十分理解した上で、正しい手順で行なってください。
使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。

暗い場所で作業を行わない
事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。

ぬらしたりしない
火災や感電の原因となります。

故障のまま使用しない
画面が表示されない、スイッチが操作できないなどの故障の状態でご使用しないでください。すぐにご使用を中止してお買上げの販売店にご相談ください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。

USB端子を指で触れたり異物を入れない
事故や感電、火災、本製品の故障、破損の原因となります。

直射日光があたる場所や高温になる場所に置いたり、炎天下の車室内に放置しない
火災や感電、故障などの原因となります。

整備の際、手や手袋、衣服などが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する
けがの原因となります。

整備の際、排気部などのエンジンの高温部分に触れないように注意する
やけどの原因となります。

分解や改造はしない
火災や感電、故障などの原因となります。

安全上のご注意(必ずお守りください。)

⚠ 警告

異常のまま使用しない
万一、煙が出ている、変なにおいや音がするときは、すぐにご使用を中止してください。
また、お買上げの販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。

ケーブルの被覆が破れた状態で使用しない
火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

本体やケーブルが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する
ショートや断線により、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。

本体やケーブル類が、排気部等のエンジンの高温部分に触れないように注意する
事故、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。

本製品を長期間使用しない場合は車両から取り外す
車両バッテリの消耗および発火の原因となります。

本体画面表示部をたたいたり、強く押したり傷をつけたりしない
画面表示部の故障、破損の原因となります。

付属品以外のUSBケーブルは使用しない
本製品やPCの故障の原因となります。

使用上のご注意

●端子部分にエンジンオイルなどを付着させないでください。接触不良の原因となります。

●エンジンオイル、ガソリン、不凍液およびバッテリ液を本体に付着させないでください。本体表面の変質の原因となります。

●アルコールを含む液体で本製品をふかないでください。割れの原因となります。

●イグニッションキーONの状態でOBDⅡコネクターを抜かないでください。故障の原因となります。

●気温0℃～40℃、湿度80%以下の環境でご使用ください。正確な測定ができません。

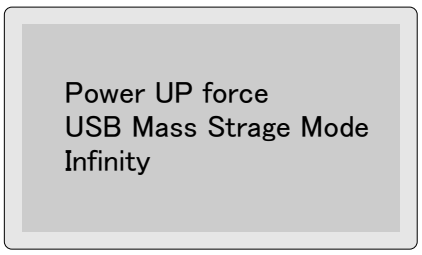
●ケーブルの被覆が破れた場合は、ショートのおそれがありますので、ご使用を中止し新しい物に交換してください。

●プリンター内部を指で触れないでください。故障の原因となります。

●プリンターレバー、プリンターカバーに無理な力を加えないでください。故障および破損の原因となります。

●本体内に日付／時刻設定のバックアップ用電池が内蔵されています。この内蔵バックアップ電池は消耗品となります。日付／時刻設定を行っても、設定が保存されない場合は内蔵バックアップ電池が消耗していますので、販売店に修理依頼してください。

●△(上スクロール)キー、▽(下スクロール)キー、MENU(メニュー)キーを押しながら、車両・PCと接続して電源がONになると、右記の画面が表示され、すべてのキー操作ができなくなります。この場合は、車両・PCとの接続を解除すると正常な状態に戻ります。



取り扱いについて

●衝撃を与えないでください。
本製品を落下、たたくなどして衝撃を与えると故障の原因となります。

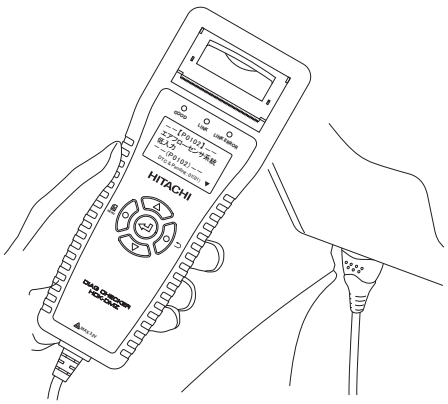
●ケーブルを無理に引っ張らないでください。
OBDⅡコネクターやUSBケーブルを外す際など、ケーブルを無理に引っ張ると断線など故障の原因となります。外す際は、コネクターを持って外してください。

保管場所について

●下記の場所には保管しないでください。
- 水のかかるところ
- 強い衝撃が加わるところ
- 気温-20℃以下60℃以上、湿度70%以上のところ
- 結露のあるところ
- 直射日光のあたるところ

製品の特長

■本製品は、車両からDTCを読み取り、消去することができます。また、読み取ったDTCの内容を日本語で表示します。



■測定データの本体への保存、および搭載プリンターによる印刷が可能です。

故障コードチェック

お客様名：　　様

診断日時 2012/05/09 10:33

【現在コード】
P0010 バリアブルタイミングコントロール(VTC)油圧バルブ回路異常
P0011 VTC(吸気側)B1
U1000 CAN通信系
P0219 整備マニュアルを参照してください。

【過去コード】
P0113 吸気温度センサ 電圧高い

【仮コード】
P0102 エア フローメータ 電圧低い

■エンジンの各種データを取得して、エンジンの状態を表示する、エンジンシステム診断機能を搭載しています。

故障コードが検出されました。エンジン関連部品の異常または、回路の断線、短絡が起きている可
▲ ▼

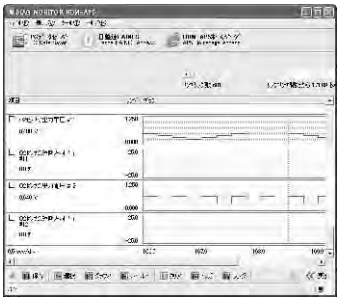
■車両の点検整備や部品交換の際に整備作業を効率的に行うことができる、作業サポート機能に対応しています。

(作業サポート選択)
エア抜き
アキュムレータ0ダウン

■J-OBDⅡ対応車両のレディネスコード表示、データモニタ、フリーズフレームデータ表示に対応しています。

燃料系1:OPEN初期
負荷計算値:20.0%
車速:100km
吸気温度:30℃
Data Monitor REC Now ▼

■拡張機能として、SAE J2534規格に準拠したパススルー機能に対応しています。PC用診断アプリケーションを使用し(※)、より高度な診断を行なうことが可能です。



※PC用診断アプリケーションは別売です。

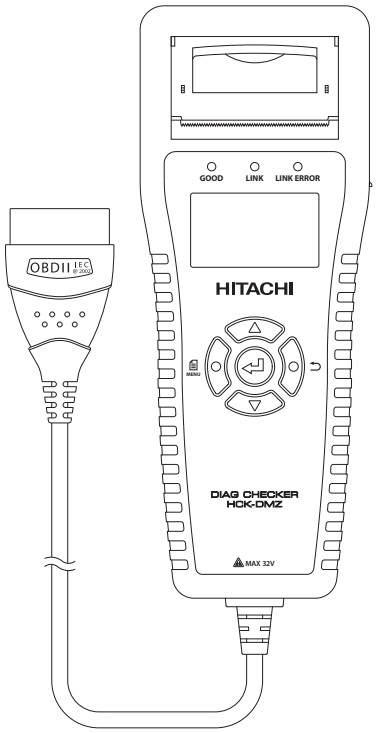
■付属のUSBケーブルでPCと接続し、ソフトウェア、データベースをインターネットを利用してダウンロードすることで、バージョンアップが行えます(※)。

※PCとインターネットの環境が必要です。

構成部品一覧表（ご使用前にご確認ください。）

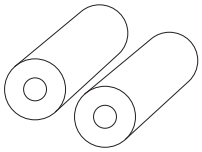
本製品には、下記のものが同梱されています。ご使用の前にご確認ください。
万一、不足している場合や破損している場合は、すぐに販売店にご連絡ください。

①ダイアグチェッカー本体…1台

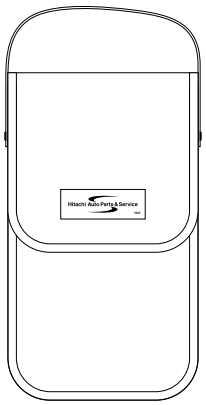


②USBケーブル…1本

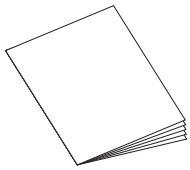
③プリンター用紙…2本（1本は本体内格納済）



④キャリングケース…1個

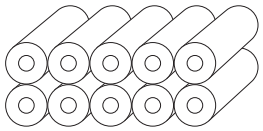


⑤取扱説明書（保証書付）…1冊



※製品の品質保持のため、右図の乾燥剤が同梱されています。お手数ですが廃棄してください。

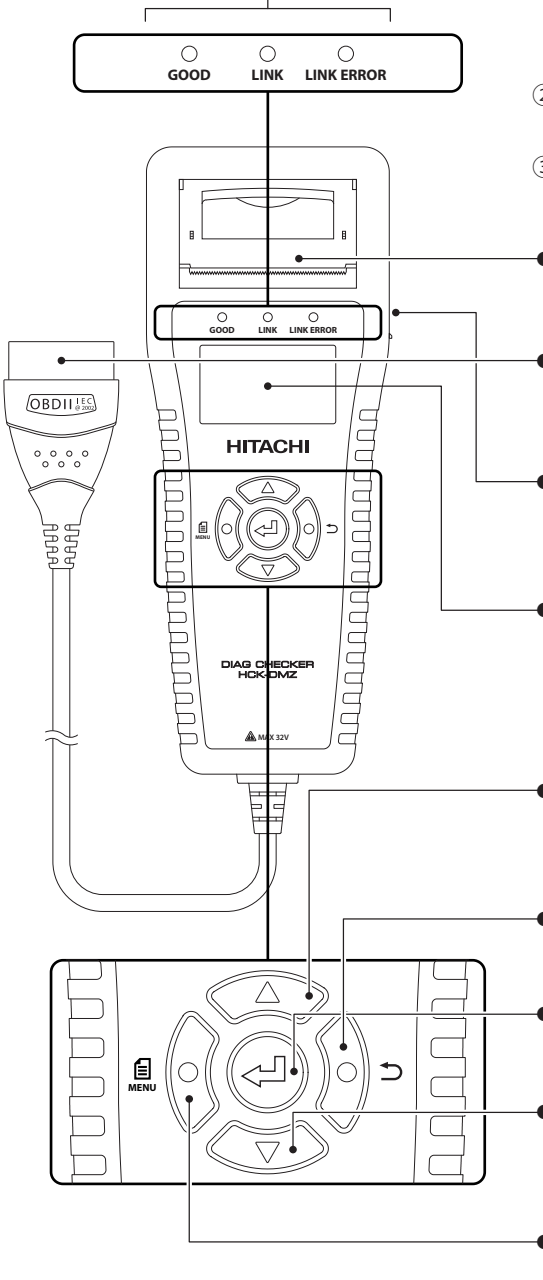
別売プリンター用紙
（部品番号：601 ROLL）
1セット10本入り



・お求めの際は、上記の部品番号をお伝えください。

本体各部の名称と働き

本体前面



● **LEDランプ**
①GOOD(緑)：
通信が終了し、DTC(故障コード)が無い時に点灯します。
②LINK(黄)：
通信中に点滅します。
③LINK ERROR(赤)：
通信に異常が起きた時に点灯します。

● **プリンター**
テスト結果をプリントアウトします。

● **OBDⅡコネクター**
DLC(車両側コネクター)に差し込みます。

● **USB端子**
PCと接続する際に、USBケーブルを差し込みます。

● **表示板(LCD)**

● **△(上スクロール)キー**
選択項目を上にスクロール、数値の入力に使用します。

● **⮌(戻る)キー**
前画面に戻る際に使用します。

● **↵(決定)キー**
選択項目の決定に使用します。

● **▽(下スクロール)キー**
選択項目を下にスクロール、数値の入力に使用します。

● **MENU(メニュー)キー**
メニュー画面を表示します。

仕様

1. 一般仕様

1.表示部	LCD（ドット表示：128×64ドット）　日本語表示対応
2.使用温度・湿度	0～40℃、80%rh以下（ただし、結露のないこと）
3.保存温度・湿度	−20～60℃、70%rh以下（ただし、結露のないこと）
4.動作電源電圧	DC10～32V
5.電源	DLC（車両側コネクター）接続、USB接続
6.LED表示	緑：DTC（故障コード）がなく、正常状態の時に点灯 黄色：車両との通信中に点滅 赤：通信エラーの際に点灯
7.印刷	内蔵プリンター
8.データ保存	DTC（故障コード）、フリーズフレームデータ、レディネスコード、 データモニタ、エンジンシステム診断 ※USB接続でPCへデータの移動が可能
9.バージョンアップ	USBケーブルでPCと接続してバージョンアップ可能
10.ケーブル長	1.8m（OBDⅡコネクター含む）
11.寸法	248mm（H）×96mm（W）×50mm（D）※ケーブル、ブッシュ含まず
12.質量	約550g　※プリンター用紙含まず

※製品仕様および外観は予告なく変更することがあります。

2. 対応車両

●国際標準規格のDLC（車両側コネクター）（SAE J1962／ISO 15031-3）を装備した車両。
●通信プロトコル：ISO 9141-2、ISO 14230-4、ISO 15765-4（CAN）に対応。
※対応車両であっても、サポートされていない車両の場合は、通信できないことがあります。
※車両の状態（搭載ECUの故障発生、OBDⅡコネクターとDLC（車両側コネクター）の接触不良、通信線の異常発生）により通信エラーが発生することがあります。

3. 拡張機能

●PCと車両のI/F BOXとして動作。
●PC用診断ソフトウェア（※）にて診断が可能（SAE J2534準拠）。
※PC用診断アプリケーションは別売です。

4. 診断項目

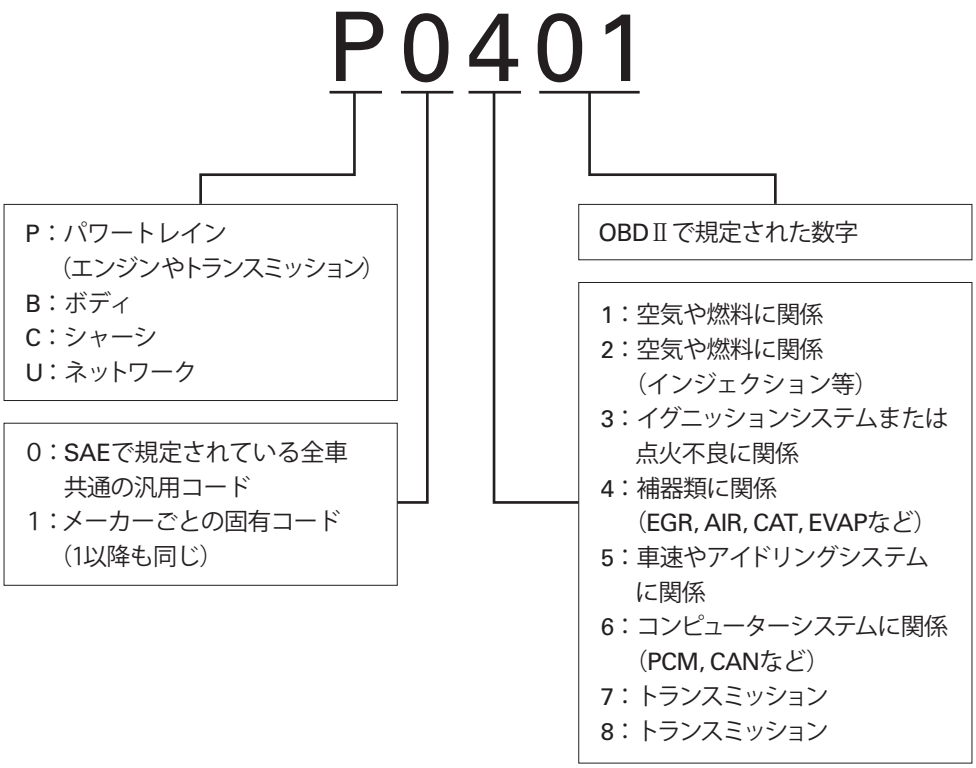
●DTC読み取り、消去
●フリーズフレームデータ読み取り
●レディネスコード読み取り
●データモニタ
●エンジンシステム診断
●作業サポート

ご使用になる前に

1. DTC（故障コード）の構成

DTC（故障コード）はSAE J2012で規定されており、頭のアルファベット＋4桁の数字で表されます。

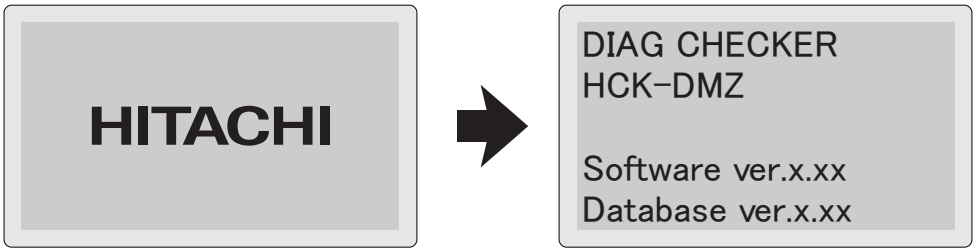
例）P0401：排気ガス再循環流量不足検出



ご使用になる前に

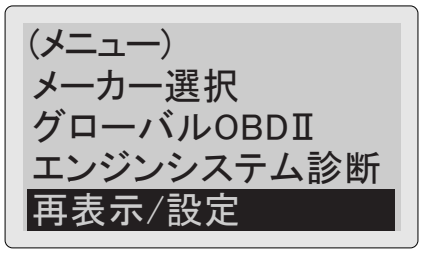
2. 日付／時刻設定

①DLC（車両側コネクター）に本製品のOBDⅡコネクターを差し込む（P12参照）、または本製品をPCと接続（P48参照）してください。本体の電源が自動でONになり、次の起動画面表示後、②のメニュー画面が表示されます。



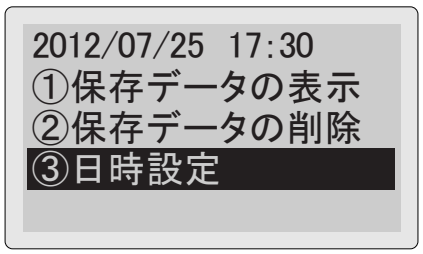
※この表示を省略したい場合は、↵（決定）キーを押してください。

②右記のメニュー画面が表示されましたら、▽（下スクロール）キーを押して"再表示/設定"を選択し、↵（決定）キーを押してください。



③右記の画面が表示されますので、"③日時設定"を選択し、↵（決定）キーを押してください。

↩（戻る）キーを押すと②のメニュー画面へ戻ります。



④右記の日付/時刻設定画面が表示されましたら、↵（決定）キーを押してください。年の表示が点滅します。

↩（戻る）キーを押すと③へ戻ります。

ご使用になる前に

⑤△▽(上・下スクロール)キーで年を合わせて、↵(決定)キーを押すと点滅箇所が月の表示へ移動します。月を合わせて↵(決定)キーを押すと点滅箇所が日の表示へ移動します。

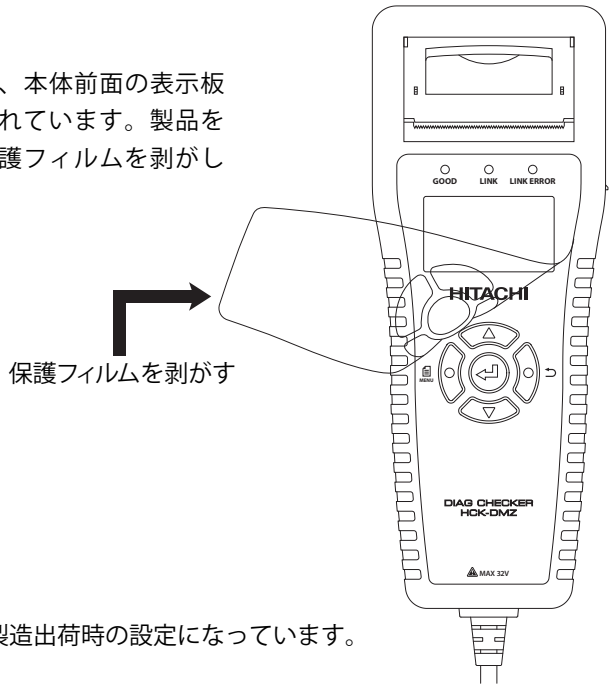
↵(決定)キーを押すと点滅箇所が移動

⑥同じ要領で分の表示まで合わせて↵(決定)キーを押すと秒が0になり、日付/時刻設定が完了し、P10③の画面へ戻ります。
車両またはPCとの接続を解除して、電源をOFFにしてください。

分の表示まで合わせて↵(決定)キーを押す

3. その他

●本製品の製造出荷時は、本体前面の表示板に保護フィルムが貼られています。製品をご使用になる前に、保護フィルムを剥がしてください。



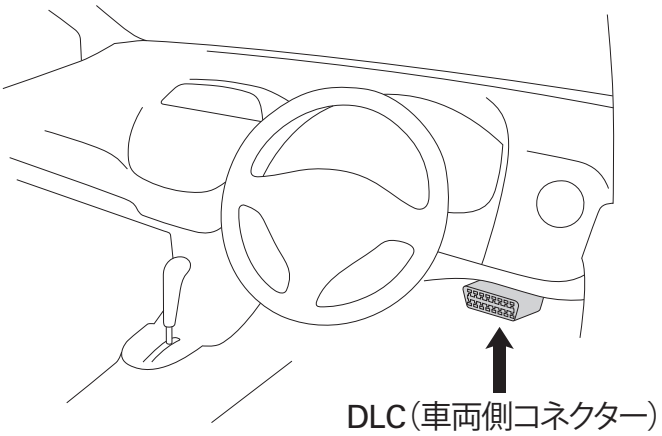
保護フィルムを剥がす

●本製品の各種設定は、製造出荷時の設定になっています。

DTC(故障コード)の読み取り・消去

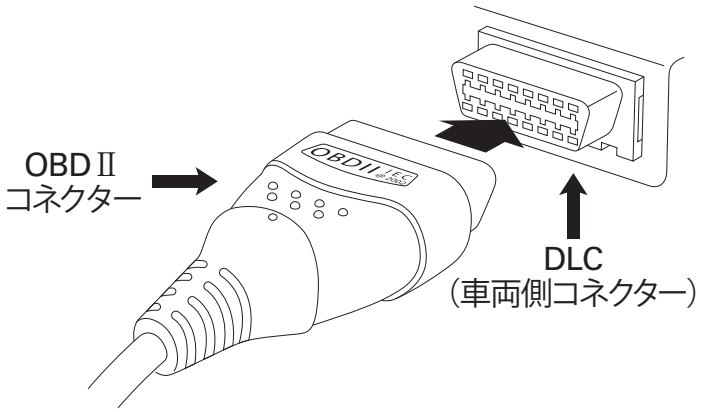
1. DTC(故障コード)の読み取り

①DLC(車両側コネクター)の位置を確認してください。通常DLC(車両側コネクター)は運転席から手の届く範囲内にあります(コネクターの形状は台形です)。ほとんどの車種は運転席側ダッシュボード下部にあります。不明の場合は、車両のサービスマニュアルなどを確認してください。



②車両のイグニッションキーがOFFになっていることを確認してください。

③DLC(車両側コネクター)にOBDⅡコネクターを差し込みます。コネクター部分の台形の形状が合うようにして、奥までしっかりと差し込んでください。

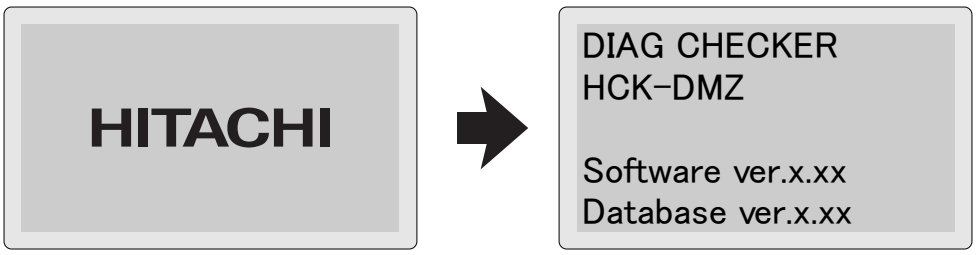


⚠ 注意

●必ずイグニッションキーがOFFになっている状態で接続してください。イグニッションキーがONになっている状態で接続すると本体が故障する原因となります。

DTC(故障コード)の読み取り・消去

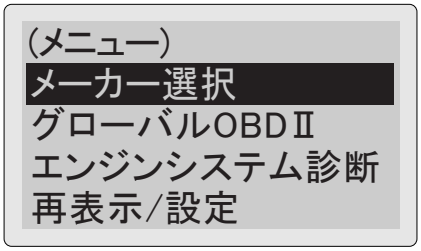
④OBDⅡコネクターを差し込むと、本体の電源が自動でONになります。次の画面が表示され⑤のメニュー画面が表示されますので、**車両のイグニッションキーをONにしてください**。
※エンジンを始動しないでください。本体が正常に動作しません。



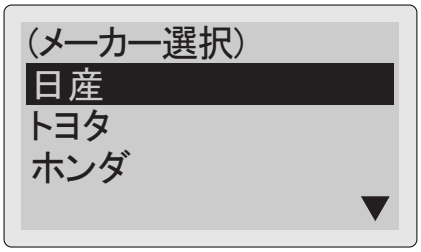
※この表示を省略したい場合は、↵(決定)キーを押してください。

> ⚠ 注意
> ●イグニッションキーONの状態でOBDⅡコネクターを抜かないでください。故障の原因となります。
> ●イグニッションキーONの状態で車両を長時間放置しないでください。バッテリー上がりの原因となります。

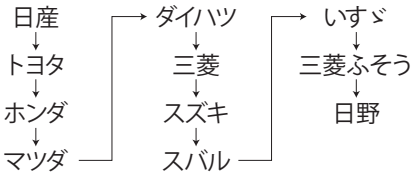
⑤本体と接続している車両メーカーを選択します。
国産車の場合は、"メーカー選択"を、外国車の場合は"グローバルOBDⅡ"を△▽(上・下スクロール)キーで選択し ↵(決定)キーを押してください。
※"グローバルOBDⅡ"を選択した場合は、P37 "1. DTC(故障コード)の読み取り・消去"へ移行します。



⑥本体と接続している車両のメーカー名を選択し、↵(決定)キーを押してください。



メーカー名は下記の順で表示されます。

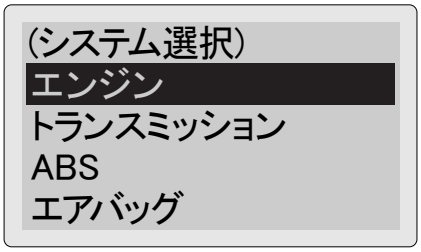


⮌(戻る)キーを押すと⑤のメニュー画面へ戻ります。

DTC(故障コード)の読み取り・消去

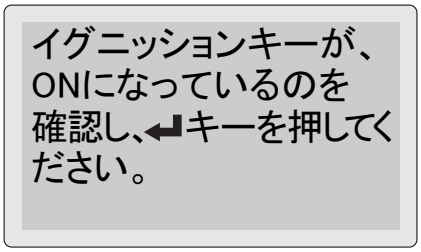
⑦診断したいシステムを選択し、↵(決定)キーを押してください。

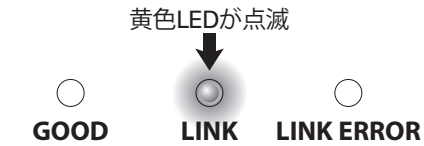
⮌(戻る)キーを押すとP13⑥のメーカー選択画面へ戻ります。



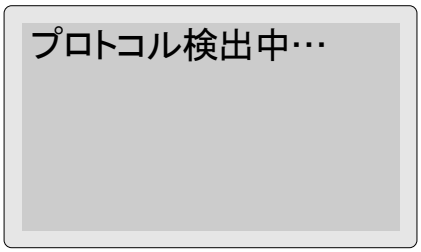
⑧右記の画面が表示されますので、イグニッションキーがONになっているのを確認し、↵(決定)キーを押してください。

⮌(戻る)キーを押すと⑦のシステム選択画面へ戻ります。

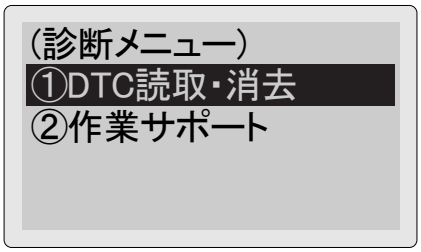




⑨通信が開始し、右記の画面が表示されます。
通信中は黄色LED(LINK)が点滅します。



※車両が日産・トヨタ・ホンダ車の作業サポートに対応しているシステムの場合、通信成功後、右記の診断メニュー画面が表示されます。(その他のメーカーの場合は表示されません。)
"①DTC読み取り・消去"を選択し、↵(決定)キーを押してください。P15⑩のDTC(故障コード)読み取り結果が表示されます。



※対応作業サポートについては、P25～P36をご参照ください。
※対応作業サポートが無い場合、"②作業サポート"は表示されません。

⮌(戻る)キーを押すと⑦のシステム選択画面へ戻ります。

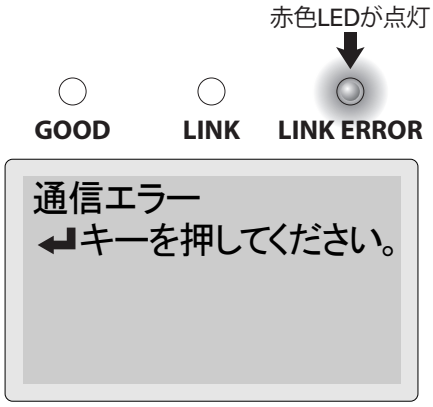
DTC(故障コード)の読み取り・消去

通信異常の場合

通信を中断し右記の画面が表示され、赤色LED(LINK ERROR)が点灯します。

↵(決定)キーを押すとP14⑦のシステム選択画面へ戻ります。

※対応車両であっても、サポートされていない車両の場合は、通信できないことがあります。また、車両の状態(搭載ECUの故障発生、OBDⅡコネクターとDLC(車両側コネクター)の接触不良、通信線の異常発生)により通信エラーが発生することがあります。



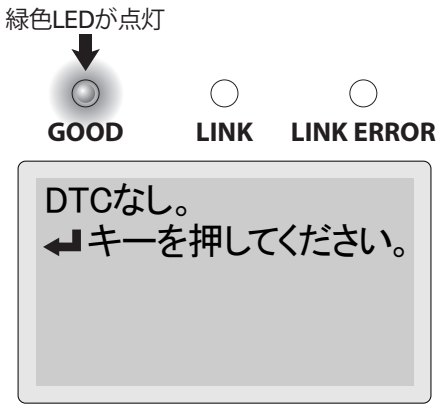
⑩下記のDTC(故障コード)読み取り結果が表示されます。

DTC(故障コード)がない場合

通信が終了し、選択したシステムにDTC(故障コード)がない場合は右記の画面が表示され、緑色LED(GOOD)が点灯します。
MENU(メニュー)キーを押すとP16⑪のメニュー画面が表示されます。

↵(決定)キーを押すとP14⑦または⑨の画面へ戻ります。

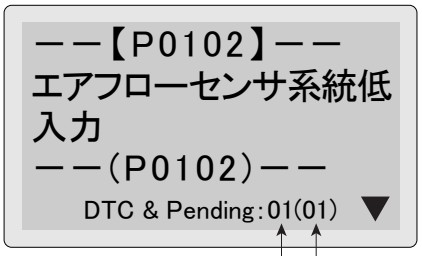
診断を終了する場合は、イグニッションキーをOFFにしてからOBDⅡコネクターを外してください。



DTC(故障コード)の読み取り・消去

DTC(故障コード)がある場合

読み取ったDTC(故障コード)と内容を表示します。
表示が次画面におよぶ場合は、画面右下に▼が表示されます。▽(下スクロール)キーを押して次画面を確認してください。
ペンディングコードも読み取り、表示します。
・DTC(故障コード):【 】表示
・ペンディングコード:( )表示
・過去コード:{ }表示
MENU(メニュー)キーを押すと⑪のメニュー画面が表示されます。

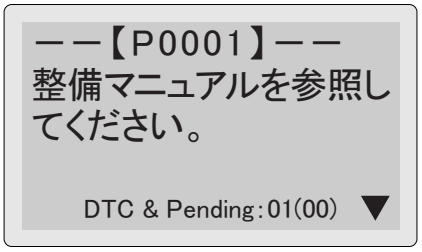


DTC(故障コード)と過去コードの数
ペンディングコードの数

⮌(戻る)キーを押すとP14⑦または⑨の画面へ戻ります。

不明なDTC(故障コード)を読み取った場合、右記のように表示します。
※画面の表示は最大192行です。193行以降は表示できません。

不明なDTC(故障コード)を読み取った場合



ペンディングコードとは?	エンジン始動から停止までの周期＝1トリップで、故障を探知すると仮故障として一時的に記録される故障コード(仮コード)。

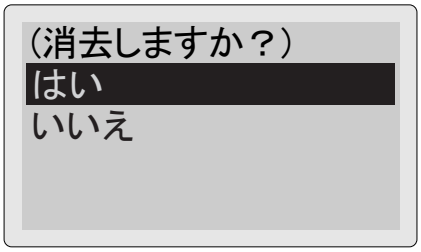
⑪"DTC/FF消去" を選択し、↵(決定)キーを押すと、P17 "2. DTC(故障コード)の消去" へ移行します。
"印刷" を選択し、↵(決定)キーを押すと、P18 "3.DTC(故障コード)の印刷" へ移行します。
"FF表示" を選択し、↵(決定)キーを押すと、P19 "4. フリーズフレームデータの表示" へ移行します。
※DTC(故障コード)が無い場合、"FF表示"は表示されません。

DTC(故障コード)の読み取り・消去

2. DTC(故障コード)の消去

車両に記憶されているDTC(故障コード)およびフリーズフレームデータの消去を行うことができます。故障箇所の修理完了後、DTC(故障コード)の消去を行ってください。

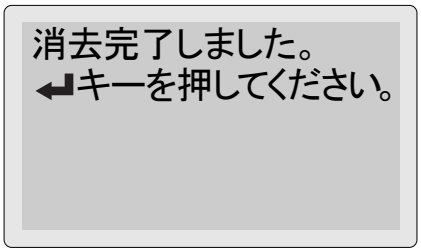
①P16⑪のメニュー画面で“DTC/FF消去”を選択すると、右記の画面が表示されます。
はいを選択：②の消去完了画面へ進む
いいえを選択：P16のDTC(故障コード)表示画面へ戻る



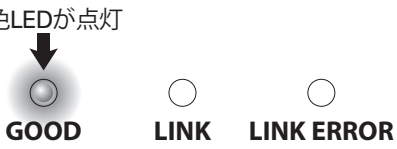
⮌(戻る)キーを押すとP16のDTC(故障コード)表示画面へ戻ります。

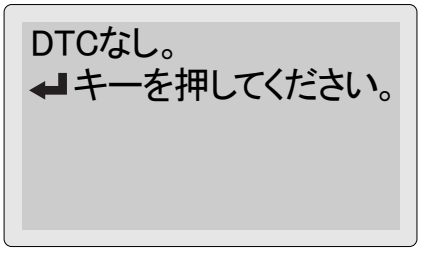
⚠注意 ●DTC(故障コード)を消去する前に車両の故障箇所の修理を行ってください。本製品でDTC(故障コード)を消去するだけでは、車両の不具合および故障は直りません。

②右記の画面が表示され消去が完了します。
↵(決定)キーを押すと自動で再通信を行い、消去の確認を行います。



③再通信が実行され、DTC(故障コード)が消去されていれば右記の画面が表示され、緑色LED(GOOD)が点灯します。
※DTC(故障コード)が再表示されてしまう場合は、故障箇所の再点検を行ってください。
※車両によっては消去実行後、イグニッションキーをOFFにしないとECU側の消去動作が完了しない場合があります。消去が完了しても、DTC(故障コード)が表示される場合、一度イグニッションキーをOFFにし、再度DTC(故障コード)読み取りを行なってください。





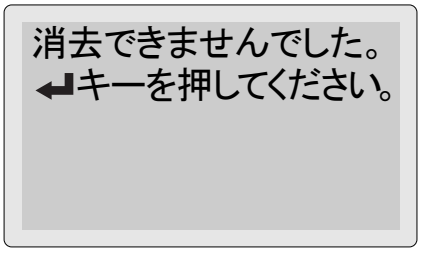
↵(決定)キーを押すとP14⑦または⑨の画面へ戻ります。

DTC(故障コード)の読み取り・消去

④診断を終了する場合は、イグニッションキーをOFFにしてからOBDⅡコネクターを外してください。

※ECUからの指令でDTC(故障コード)が消去できない場合は、右記の画面が表示されます。この場合、本製品では消去できませんので、サービスマニュアルなどで確認してください。

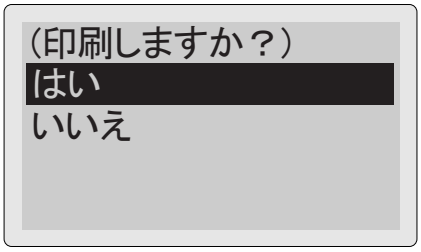
↵(決定)キーを押すとP16のDTC(故障コード)表示画面へ戻ります。



3. DTC(故障コード)の印刷

①P16⑪のメニュー画面で“印刷”を選択すると、右記の画面が表示されます。
はいを選択すると、本体上部のプリンターから出力されます。いいえを選択すると、P16⑪のメニュー画面へ戻ります。

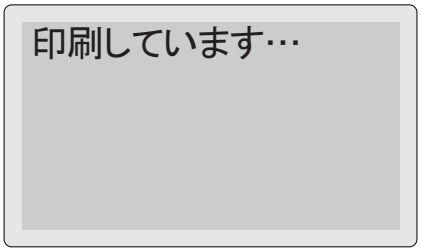
※印刷例はP51～P52をご参照ください。



※印刷中は右記の画面が表示されます。印刷終了後はP16⑪のメニュー画面に戻ります。

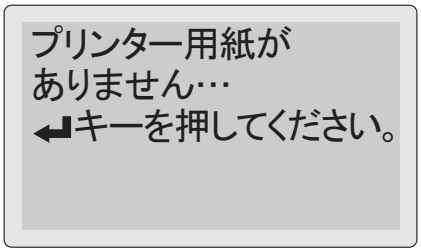
※プリンターカバーが開いた状態では、正常な印字動作が行えません。

※紙詰まりが起こると正常な印字動作ができません。プリンターカバーを開き、用紙を引き出して再度印刷してください。



※プリンター用紙の残りが少ない、または入っていない場合、右記の画面が表示されます。P53“1.プリンター用紙のセット”を参照し、新しいプリンター用紙をセットしてください。
↵キーを押すとP16⑪のメニュー画面に戻ります。

※プリンター用紙の残りが少ない状態でも、センサーの誤認識で右記の表示がされない場合があります。



DTC(故障コード)の読み取り・消去

4. フリーズフレームデータの表示

①P16⑪のメニュー画面で“FF表示”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記の画面が表示され、黄色LED(LINK)が点滅します。

●フリーズフレームデータがある場合

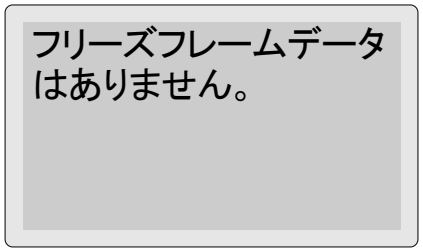
右記のようにフリーズフレームデータが表示されます。表示が次画面におよぶ場合は、画面右下に▼が表示されます。▽(下スクロール)キーを押して次画面を確認してください。

※表示に時間がかかる場合は“処理中”と表示します。

⮌(戻る)キーを押すとP16のDTC(故障コード)表示画面へ戻ります。MENU(メニュー)キーを押すとP20 “5.フリーズフレームデータの印刷” ①のメニュー画面が表示されます。

●フリーズフレームデータがない場合

右記の画面が表示されます。



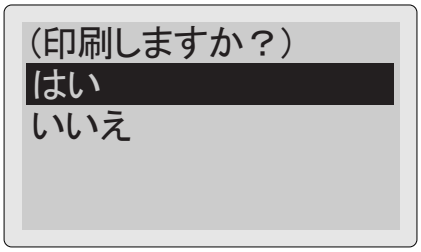
⮌(戻る)キーを押すとP16のDTC(故障コード)表示画面へ戻ります。MENU(メニュー)キーを押すとP20 “5.フリーズフレームデータの印刷” ①のメニュー画面が表示されます。

DTC(故障コード)の読み取り・消去

5. フリーズフレームデータの印刷

①P19のフリーズフレームデータ表示、フリーズフレームデータ無し画面で、MENU(メニュー)キーを押すと右記のメニュー画面が表示されます。
"印刷" を選択し、↵(決定)キーを押すと、②の印刷確認画面が表示されます。
"データ保存" を選択し、↵(決定)キーを押すと、"6.DTC(故障コード)、フリーズフレームデータの保存" へ移行します。

②はいを選択：本体上部のプリンターから出力されます
いいえを選択：①のメニュー画面へ戻ります
※印刷に関する注意事項は、P18 "3.DTC(故障コード)の印刷" の内容をご参照ください。
※印刷が終了すると、①のメニュー画面へ戻ります。



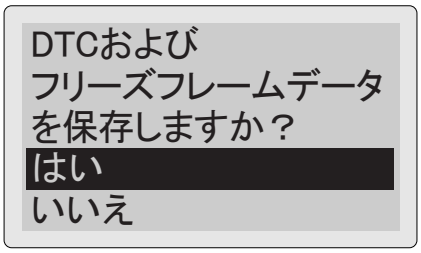
6. DTC(故障コード)、フリーズフレームデータの保存

下記の診断データを最大99件記憶することができます。

- 診断日時
- 診断したシステム名
- フリーズフレームデータ
- 診断した車両のメーカー名
- DTC(故障コード)

※本体の日時が正しく設定されていない場合、診断日時が正しく保存されません。P10 "日付／時刻設定" を参照し、日時を正しく設定してください。
※保存データが99件を超えた場合、最も古いデータから自動的に削除されます。

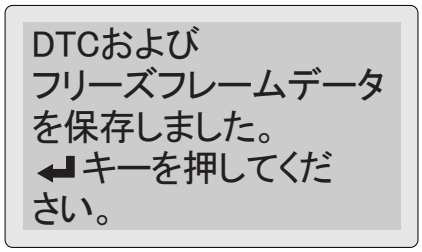
①上記①のメニュー画面で、データ保存を選択し、↵(決定)キーを押すと右記の保存確認画面が表示されます。
はいを選択：P21②の保存終了画面へ進む
いいえを選択：保存せずに上記①のメニュー画面へ戻る



DTC(故障コード)の読み取り・消去

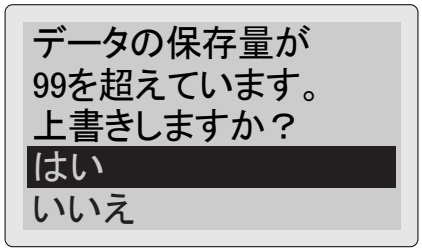
②はいを選択すると右記の画面が表示され、データの保存が終了します。

↵(決定)キーを押すとP20①のメニュー画面へ戻ります。



保存データが99件を超えていた場合

保存データが99件を超えていた場合、右記の画面が表示されます。
はいを選択：最も古いデータを上書し、上記②の保存終了画面へ進む
いいえを選択：P20①のメニュー画面へ戻る

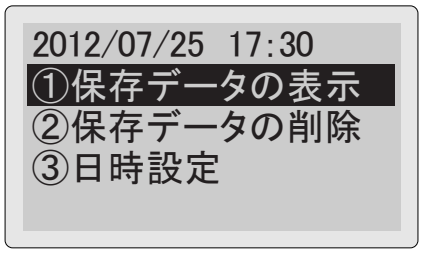


7. 保存データの表示

※レディネスコードおよびデータモニタの保存データは表示できません。

①P13⑤のメニュー画面で、“再表示/設定”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記の画面が表示されます。“①保存データの表示”を選択し、↵(決定)キーを押してください。

⮌(戻る)キーを押すとP13⑤のメニュー画面へ戻ります。



②右記のデータ選択画面が表示されますので、DTC/FFDを選択し、↵(決定)キーを押してください。

⮌(戻る)キーを押すと①の画面へ戻ります。

DTC(故障コード)の読み取り・消去

③右記の保存データー覧画面が表示されます。表示したいデータを選択し、↵(決定)キーを押してください。

※ファイル名は診断車両のメーカー(またはデータ種類)、データファイル番号で構成されています。(下記参照)

⮌(戻る)キーを押すとP21②のデータ選択画面へ戻ります。

■ファイル名の構成

07/NI_00001.TXT

- 07 … 01～99までの表示番号
- NI … メーカー名(またはデータ種類)
- 00001 … 00001～99999までのデータファイル番号

メーカー名(またはデータ種類)

NI ：日産	MI：三菱	HI ：日野
TO ：トヨタ	SU：スズキ	GL ：グローバルOBDⅡ(P37～P38参照)
HO：ホンダ	FU：スバル	RC ：レディネスコード(P39～P43参照)
MA：マツダ	IS ：いすゞ	DM：データモニタ(P39～P43参照)
DA ：ダイハツ	FS ：三菱ふそう	ER ：エンジンシステム診断(P44～P47参照)

④右記の様に保存データが表示されます。△▽(上・下スクロール)キーを押して保存データを確認してください。

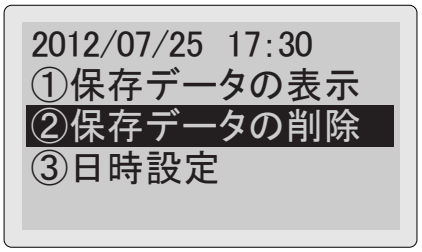
⮌(戻る)キーを押すと③の保存データー覧画面へ戻ります。

DTC(故障コード)の読み取り・消去

8. 保存データの削除

①P13⑤のメニュー画面で、“再表示/設定”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記の画面が表示されます。“②保存データの削除”を選択し、↵(決定)キーを押してください。

⮌(戻る)キーを押すとP13⑤のメニュー画面へ戻ります。



②右記のデータ選択画面が表示されますので、削除したいデータの種類を選択します。DTC/FFDを選択し、↵(決定)キーを押してください。

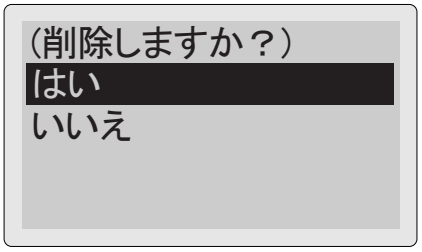
⮌(戻る)キーを押すと①の画面へ戻ります。

③右記の保存データー覧画面が表示されます。削除したいデータを選択し、↵(決定)キーを押してください。

⮌(戻る)キーを押すと②のデータ選択画面へ戻ります。

④右記の画面が表示されます。
はいを選択：P24⑤の削除終了画面へ進む
いいえを選択：削除せずに③の保存データー覧画面へ戻る

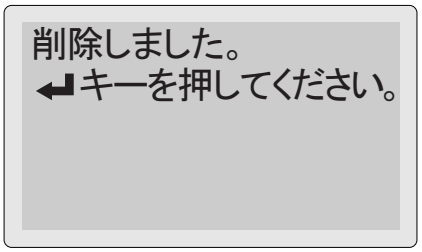
⮌(戻る)キーを押すと③の保存データー覧画面へ戻ります。



DTC(故障コード)の読み取り・消去

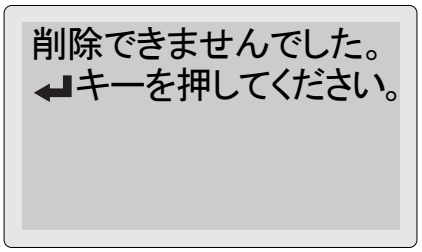
⑤はいを選択すると右記の画面が表示され、データの削除が終了します。

↵(決定)キーを押すとP23③の保存データ一覧画面へ戻ります。



削除異常が発生した場合

削除異常が発生した場合は、右記の画面が表示されます。↵(決定)キーを押すと、P23③の保存データ一覧画面へ戻ります。

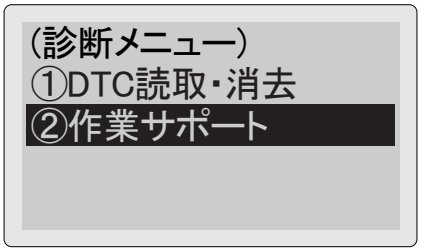


作業サポート

⚠ 警告

●作業サポートは、対象車両の整備マニュアルにより作業内容を十分理解したうえで、正しい手順で行なってください。
使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。

前項のP14⑧で車両と通信し、車両が日産・トヨタ・ホンダ車で、対応作業サポートが有る場合、右記の診断メニューに“②作業サポート”が表示されます。“②作業サポート”を選択し、↵(決定)キーを押すと下記の注意事項が画面に表示されます。



〈注意〉作業サポートは周囲の安全を確認し、対象車両の整備マニュアルを参照の上、作業内容を十分理解した上で実行してください。同意する場合は、↵キーを押してください。

注意事項に同意のうえ、**最終ページ画面にて** ↵(決定)キーを押してください。P26①の作業サポート選択画面が表示されます。
※注意画面の最終ページのみ ↵(決定)キーが有効になります。最終ページ以外では、↵(決定)キーを押しても次画面に進みません。

⮌(戻る)キーを押すと診断メニュー画面へ戻ります。

1. 急速TAS学習クリア

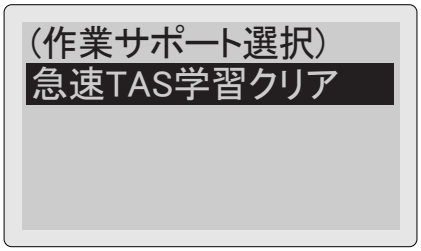
本機能は、車両の部品を交換した場合や対象項目の値が基準値から外れている場合に、対象項目の値を基準値内にするために活用する機能です。

急速TAS学習クリアを行なう際は、事前に下記の実行前準備を行なってください。
【実行前準備】
1. 本製品と車両の接続が解除されていることを確認してください。
2. イグニッションをONからOFFにして約5秒間保持してください。このとき、スロットルバルブの作動音がすることを確認してください。
3. エンジンを始動し、水温が80～95℃になるよう十分暖機してください。
4. シフト位置がニュートラルまたはパーキングになっていることを確認してください。
5. エアコンがOFFになっていることを確認してください。

作業サポート

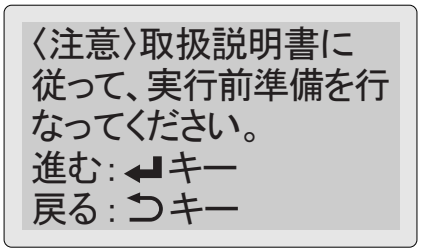
①急速TAS学習クリアに対応している場合、右記の作業サポート選択画面に“急速TAS学習クリア”が表示されます。“急速TAS学習クリア”を選択し、↵(決定)キーを押してください。

⮌(戻る)キーを押すと診断メニュー画面へ戻ります。



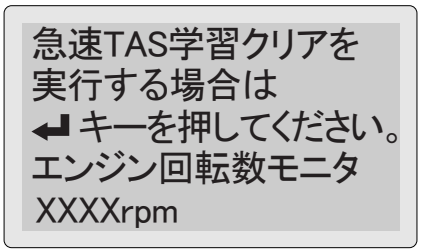
②右記の画面が表示されます。
※P25の実行前準備を行なっていない場合は、必ず行なってください。
↵(決定)キーを押すと③へ進みます。

⮌(戻る)キーを押すと①の作業サポート選択画面へ戻ります。

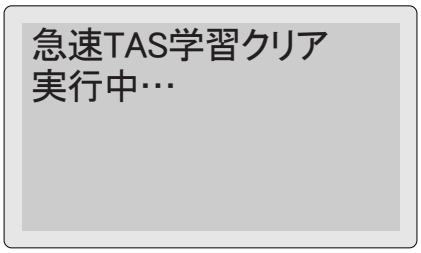


③右記の画面が表示されますので、↵(決定)キーを押してください。急速TAS学習クリアが実行されます。

⮌(戻る)キーを押すと②の画面へ戻ります。



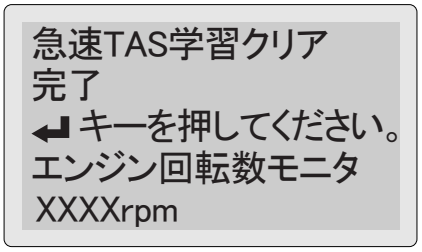
④実行中は右記の画面が表示され、黄色LED(LINK)が点滅します。



作業サポート

クリア完了

クリアが完了すると、右記の画面が表示されます。
エンジン回転数の数値が基準値内であることを確認してください。
基準値以外の場合は、再度クリアを実行してください。
↵（決定）キーを押すと、P26①の作業サポート選択画面へ戻ります。

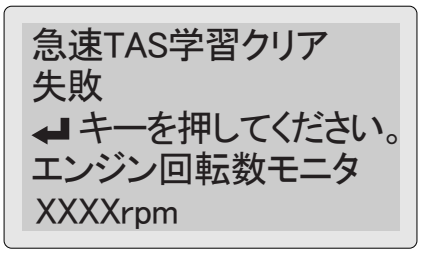


⚠注意

- ●再度クリアを実行する場合は、一度エンジンを停止（イグニッションOFF）してから行ってください。
  連続でクリアを実行した場合、処理が終了しない場合があります。
- ●エアコン等がONの時も処理が終了しない場合があります。エアコン等がOFFになっていることを確認してから、クリアを実行してください。

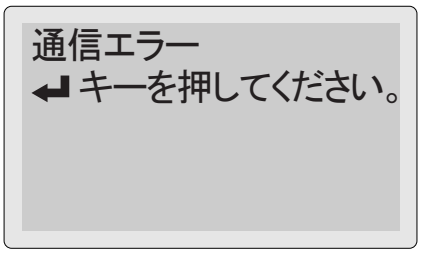
クリア失敗

クリアに失敗すると右記の画面が表示されます。
↵（決定）キーを押すと、P26①の作業サポート選択画面へ戻りますので、最初からやり直してください。



通信異常の場合

通信を中断し右記の画面が表示され、赤色LED（LINK ERROR）が点灯します。
↵（決定）キーを押すと、P14⑦のシステム選択画面へ戻りますので、最初からやり直してください。

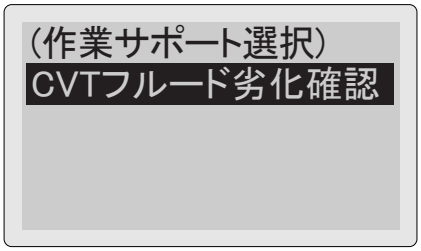


作業サポート

2. CVTフルード劣化度確認

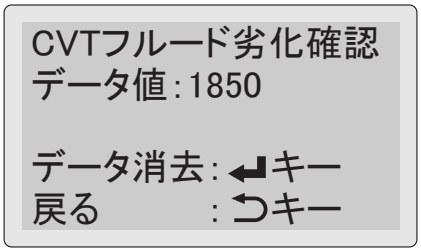
本機能は、劣化度データによるフルード交換の判定や、フルード交換後に劣化度データのクリアをするために活用する機能です。

①CVTフルード劣化度確認に対応している場合、P26①の作業サポート選択画面に“CVTフルード劣化度”が表示されます。“CVTフルード劣化度”を選択し、↵(決定)キーを押してください。



> ⮌(戻る)キーを押すとP25の診断メニュー画面へ戻ります。

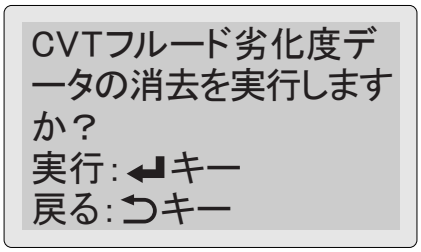
②右記のCVTフルード劣化確認画面が表示されますので、データを消去する場合は↵(決定)キーを押してください。



> ⮌(戻る)キーを押すと①の作業サポート選択画面へ戻ります。

※CVTフルード交換の目安となる劣化度データの値については、対象車両の整備マニュアルをご参照ください。

③右記の画面が表示されますので、↵(決定)キーを押して消去を実行してください。



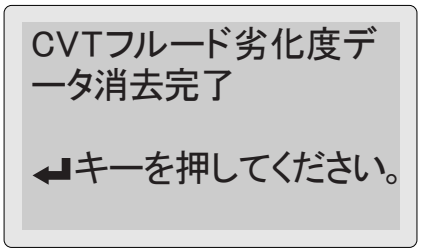
> ⮌(戻る)キーを押すと②のCVTフルード劣化確認画面へ戻ります。

作業サポート

④消去が完了すると右記の画面が表示されます。

↵(決定)キーを押すとP28②のCVTフルード劣化確認画面へ戻ります。

※通信エラーが発生した場合は、P27“通信異常の場合”をご参照ください。



3. エア抜き／アキュムレータ0ダウン

⚠ 警告

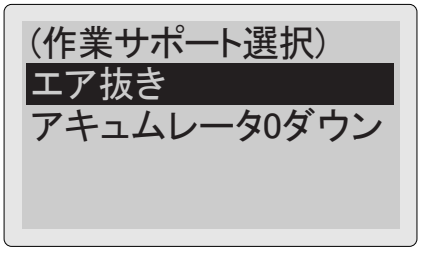
●エア抜き/アキュムレータ0ダウンは、ZVW30系プリウス、ZVW40系プリウスα、AZK10系SAIに搭載されている、ECBのブレーキフルード取替(エア抜き)作業には対応しておりません。これらの車両に使用した場合、車両側を正常復帰させることが困難となりますので、当該車両では使用しないでください。

P25の診断メニュー画面で、“②作業サポート”を選択し車両がトヨタ車の場合、下記の注意事項が表示されます。

〈注意〉本機能は、2009年5月以降に販売された下記車両に搭載されているECBシステムのエア抜き/ブレーキフルード取替作業には対応しておりません。
・ZVW30系プリウス
・AZK10系SAI
など
本メッセージ確認後、↵キーを押してください。

注意事項に同意のうえ、↵(決定)キーを押してください。下記の作業サポート選択画面が表示されます。
※注意画面の最終ページのみ↵(決定)キーが有効になります。

右記の作業サポート選択画面が表示されますので、実行する作業サポートを選択し、↵(決定)キーを押してください。
※対応していない項目は表示されません。

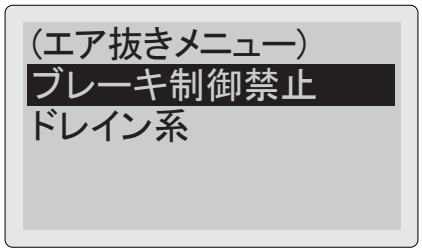


作業サポート

ブレーキ制御禁止

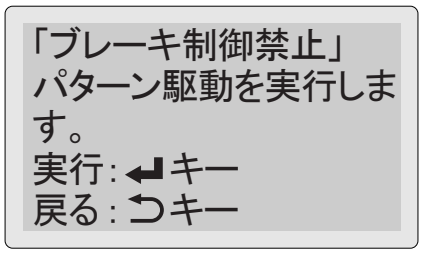
本機能は、車両のブレーキエア抜きを実行するために活用する機能です。

①P29の作業サポート選択画面で“エア抜き”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記のエア抜きメニュー画面が表示されます。
“ブレーキ制御禁止”を選択し、↵(決定)キーを押してください。
※対応していない項目は表示されません。



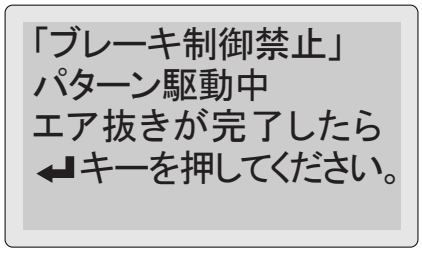
↩(戻る)キーを押すとP29の作業サポート選択画面へ戻ります。

②右記の画面が表示されますので、↵(決定)キーを押して実行を開始してください。



↩(戻る)キーを押すと①のエア抜きメニュー画面へ戻ります。

③実行中は右記の画面が表示されます。エア抜き作業が完了したら、↵(決定)キーを押してください。②の画面へ戻ります。
※通信エラーが発生した場合は、P27“通信異常の場合”をご参照ください。

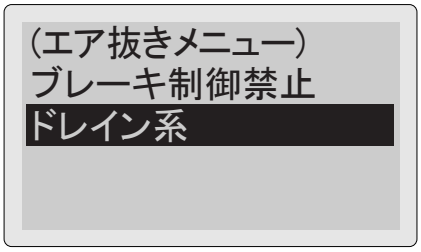


作業サポート

ドレイン系

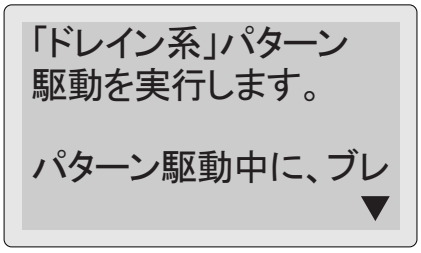
本機能は、車両のブレーキアクチュエータチューブ内のエア抜きを実行するために活用する機能です。

①P29の作業サポート選択画面で“エア抜き”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記のエア抜きメニュー画面が表示されます。
“ドレイン系”を選択し、↵(決定)キーを押してください。
※対応していない項目は表示されません。



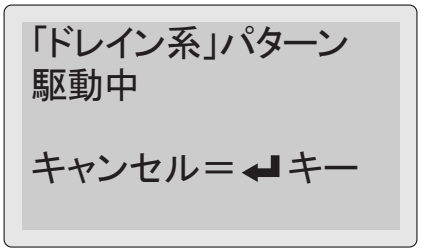
⮌(戻る)キーを押すとP29の作業サポート選択画面へ戻ります。

②右記の画面が表示されますので、画面表示をお読みのうえ、↵(決定)キーを押して実行を開始してください。
※注意画面の最終ページのみ↵(決定)キーが有効になります。

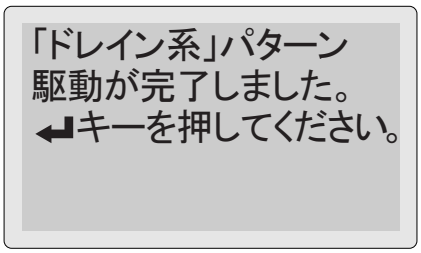


⮌(戻る)キーを押すと①のエア抜きメニュー画面へ戻ります。

③実行中は右記の画面が表示されます。
※キャンセルする場合は↵(決定)キーを押してください。④の画面が表示されます。



④「ドレイン系」パターン駆動が完了すると、右記の画面が表示されます。↵(決定)キーを押すと①のエア抜きメニュー画面へ戻ります。
※通信エラーが発生した場合は、P27“通信異常の場合”をご参照ください。



作業サポート

アキュムレータ0ダウン

本機能は、車両のブレーキアクチュエータ取替等の際にアキュムレータ内の圧抜きや循環を実行するために活用する機能です。

①P29の作業サポート選択画面で“アキュムレータ0ダウン”を選択し、↵(決定)キーを押すと、下記の注意事項が表示されます。

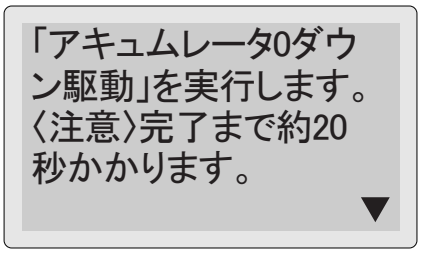
「アキュムレータ0ダウン駆動」は、ブレーキアクチュエータ交換時に実施してください。
〈注意〉この作業を実施する際は、必ず修理書の手順に従って作業を実施してください。
本メッセージ確認後、↵キーを押してください。

注意事項に同意のうえ、↵(決定)キーを押してください。
※注意画面の最終ページのみ ↵(決定)キーが有効になります。

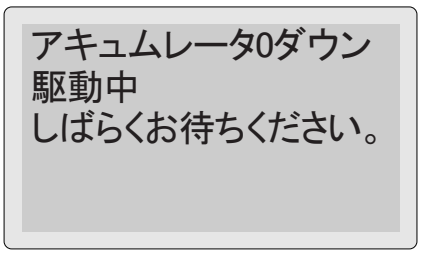
⮌(戻る)キーを押すとP29の作業サポート選択画面へ戻ります。

②右記の画面が表示されますので、↵(決定)キーを押して実行を開始してください。

⮌(戻る)キーを押すと①の注意画面へ戻ります。

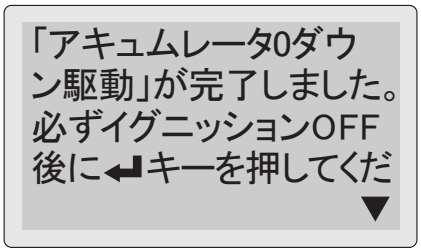


③実行中は右記の画面が表示されます。アキュムレータ0ダウン駆動は、約20秒で自動的に完了します。



作業サポート

④「アキュムレータ0ダウン駆動」が完了すると、右記の画面が表示されます。イグニッションをOFFにし ↵（決定）キーを押すと、P29の作業サポート選択画面へ戻ります。



※イグニッションをOFFせずに終了した場合、アキュムレータの圧力が再度上昇します。

※通信エラーが発生した場合は、P27“通信異常の場合”をご参照ください。

※注意画面の最終ページのみ ↵（決定）キーが有効になります。

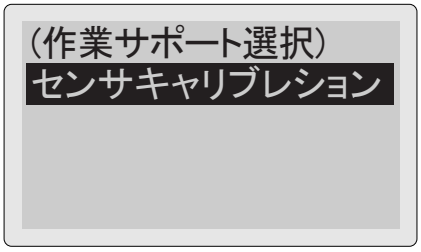
⚠注意 ●連続で実行する場合は、しばらく待ってから行なってください。連続で実行した場合、処理が実行できない場合があります。

4. センサキャリブレーション

ABSのセンサキャリブレーションを実行します。

⚠警告 ●センサキャリブレーションは、対象車両の整備マニュアルによりその機能および消去される内容を十分理解したうえで行なってください。使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。

①センサキャリブレーションに対応している場合、P26①の作業サポート選択画面に“センサキャリブレション”が表示されます。“センサキャリブレション”を選択し、↵（決定）キーを押してください。



⮌（戻る）キーを押すとP25の診断メニュー画面へ戻ります。

作業サポート

②下記の注意事項が表示されます。

〈注意〉センサキャリブレーションは、対象車種の整備マニュアルを、参照の上、テスト項目の内容を十分理解した上で、実行してください。
同意する場合は、↵キーを押してください。

注意事項に同意のうえ、↵(決定)キーを押してください。

⮌(戻る)キーを押すとP33①の作業サポート選択画面へ戻ります。

③右記の画面が表示されますので、↵(決定)キーを押して実行を開始してください。
※注意画面の最終ページのみ↵(決定)キーが有効になります。

⮌(戻る)キーを押すとP33①の作業サポート選択画面へ戻ります。

センサキャリブレーションを実行します。
※注意　学習値等がクリアされます。
▼

④正常に実行された場合、右記の画面が表示されます。

↵(決定)キーを押すと③へ戻ります。

センサキャリブレーションは正常に実行されました。
↵キーを押してください。

失敗した場合、右記の画面が表示されます。
失敗の原因として下記事項が考えられますので、車両を確認してください。
●DTC(故障コード)がある
●エンジンが始動している
●車両が傾いている

↵(決定)キーを押すと③へ戻ります。

※通信エラーが発生した場合は、P27“通信異常の場合”をご参照ください。

センサキャリブレーションは失敗しました。
↵キーを押してください。

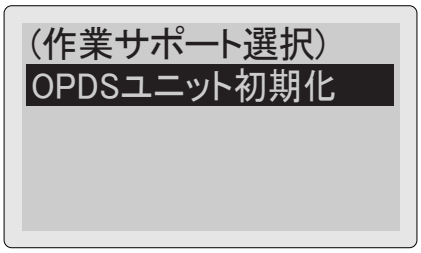
作業サポート

5. OPDSユニット初期化

助手席のシートバックトリムカバー、シートバックパッドまたはOPDSユニットを交換した場合、この機能を使用してOPDSユニットの初期化を行います。

> ⚠警告
> ●OPDSユニット初期化は、対象車両の整備マニュアルによりその機能および消去される内容を十分理解したうえで行なってください。
> 使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。

①OPDSユニット初期化に対応している場合、P26①の作業サポート選択画面に“OPDSユニット初期化”が表示されます。“OPDSユニット初期化”を選択し、↵(決定)キーを押してください。



⮌(戻る)キーを押すとP25の診断メニュー画面へ戻ります。

②下記の注意事項が表示されます。

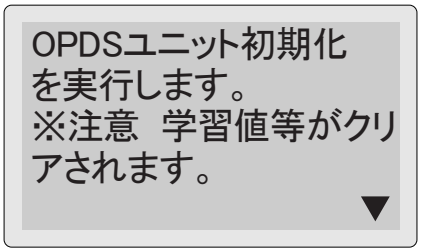
〈注意〉OPDSユニット初期化は対象車種の整備マニュアルを、参照の上、テスト項目の内容を十分理解した上で、実行してください。
同意する場合は、↵キーを押してください。

↵

※注意画面の最終ページのみ↵(決定)キーが有効になります。

⮌(戻る)キーを押すと①の作業サポート選択画面へ戻ります。

③右記の画面が表示されますので、↵(決定)キーを押して実行を開始してください。

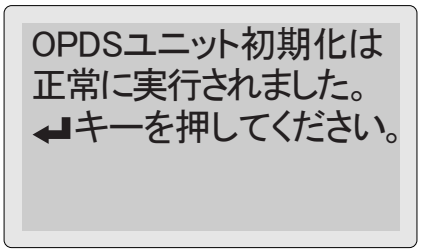


⮌(戻る)キーを押すと①の作業サポート選択画面へ戻ります。

作業サポート

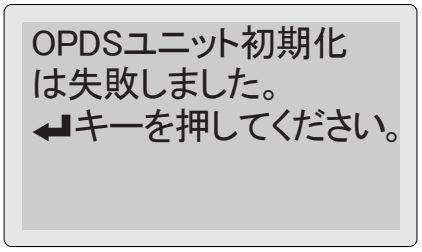
④正常に実行された場合、右記の画面が表示されます。

↵(決定)キーを押すとP35③へ戻ります。



失敗した場合、右記の画面が表示されます。

↵(決定)キーを押すとP35③へ戻ります。



※通信エラーが発生した場合は、P27“通信異常の場合”をご参照ください。

グローバルOBDⅡ

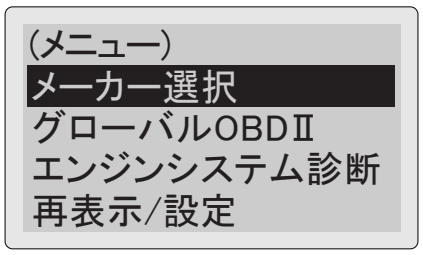
OBD規制対応車両のDTC(故障コード)の読み取り・消去、レディネスコード表示、データモニタ表示を行えます。
※診断システムは、エンジンのみとなります。

●各国のOBD規制の車両への適応時期について

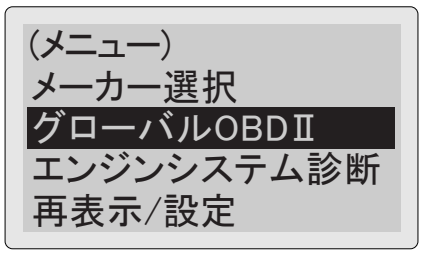
OBD規制名称	対象地域	適応時期
CARB-OBDⅡ	米国	'96年～
E-OBD	欧州	'00年～
J-OBDⅡ	日本	'08年～

1. DTC(故障コード)の読み取り・消去

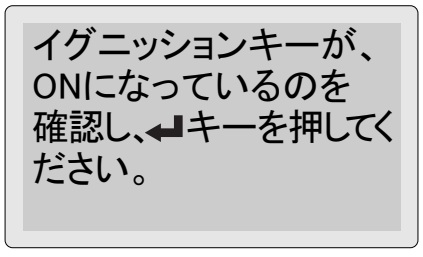
①DLC(車両側コネクター)にOBDⅡコネクターを差し込むと、本体の電源が自動でONになり、起動画面表示後、右記のメニュー画面が表示されますので、**車両のイグニッションキーをONにしてください**。
※エンジンを始動しないでください。本体が正常に動作しません。



②"グローバルOBDⅡ"を選択し、↵(決定)キーを押してください。



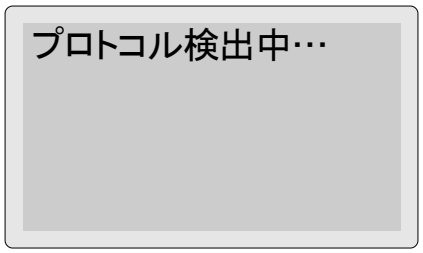
③右記の画面が表示されますので、イグニッションキーがONになっているのを確認し、↵(決定)キーを押してください。



⮌(戻る)キーを押すと②のメニュー画面へ戻ります。

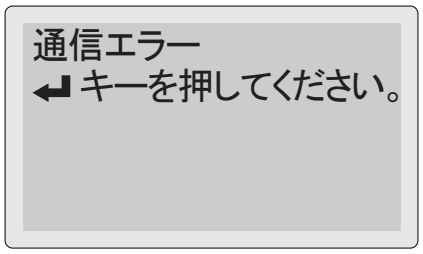
グローバルOBDⅡ

④通信が開始し、右記の画面が表示されます。
通信中は黄色LED(LINK)が点滅します。

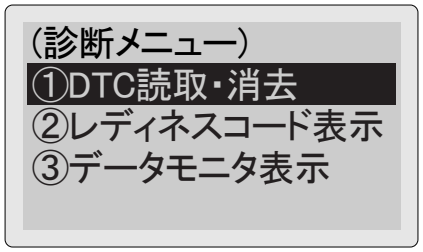


通信異常の場合

通信を中断し右記の画面が表示され、赤色LED(LINK ERROR)が点灯します。
↵(決定)キーを押すと、P37①のメニュー画面へ戻ります。



⑤通信に成功すると右記の診断メニュー選択画面が表示されます。
"①DTC読み取り・消去"を選択し、↵(決定)キーを押してください。DTC(故障コード)読取り結果が表示されます。



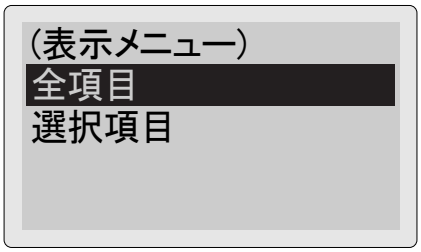
⮌(戻る)キーを押すとP37③の画面へ戻ります。

DTC(故障コード)読み取り結果の表示・消去・印刷、フリーズフレームデータの表示・印刷、データの保存・表示・削除は、P15～P24と同様です。

グローバルOBDⅡ

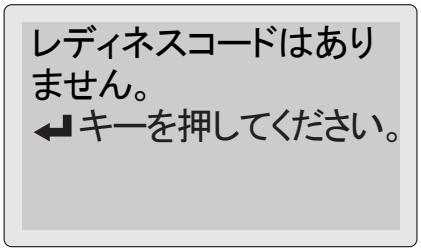
2. レディネスコード／データモニタ表示

①P38⑤の診断メニュー画面で　“②レディネスコード表示”または“③データモニタ表示”を選択し、↵(決定)キーを押してください。
右記の表示メニュー選択画面が表示されます。
“全項目”を選択し、↵(決定)キーを押すと、P40③の通信が開始されます。
“選択項目”を選択し、↵(決定)キーを押すと、P40②の表示項目選択画面が表示され、任意の項目を選択できます。



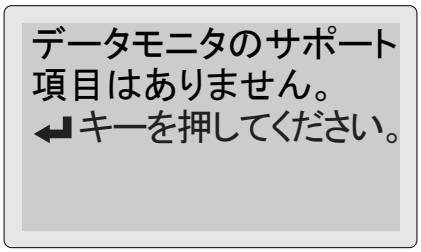
⮌(戻る)キーを押すとP38⑤の診断メニュー画面へ戻ります。

※レディネスコードが無い場合は右記の画面が表示されます。



⮌(戻る)キーまたは↵(決定)キーを押すと、①の表示メニュー選択画面へ戻ります。

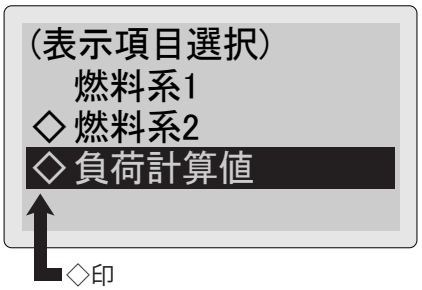
※データモニタが無い場合は右記の画面が表示されます。



⮌(戻る)キーまたは↵(決定)キーを押すと、①の表示メニュー選択画面へ戻ります。

グローバルOBDⅡ

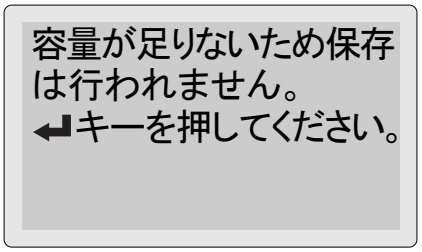
②表示したい項目を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記画面の様に◇印が付きます。
再度↵(決定)キーを押すと、◇印は消えます。
表示したい項目に◇印を付け、MENU(メニュー)キーを押すと、③の通信が開始されます。
※選択項目は50項目が上限となります。



↩(戻る)キーを押すと、P39①の表示メニュー選択画面へ戻ります。

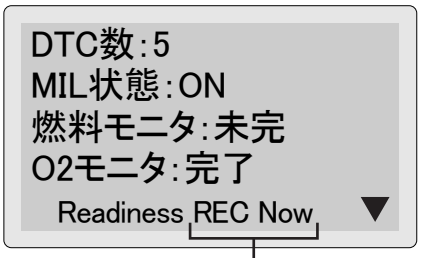
③通信が開始し、画面に“通信中”と表示されます。通信中は黄色LED(LINK)が点滅します。

※本体メモリーの容量が少ない場合、右記の画面が表示されます。
レディネスコード／データモニタは表示されますが、保存できません。



④レディネスコードまたはデータモニタが表示されます。
MENU(メニュー)キーを押すとP41⑤のメニュー画面が表示されます。

●レディネスコード表示例

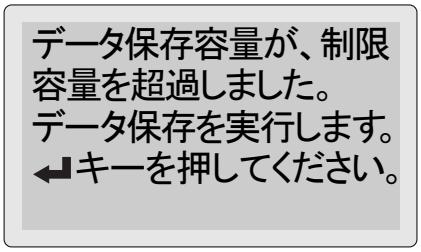


●データモニタ表示例

保存不可の場合は“REC Stop”と表示

グローバルOBDⅡ

※測定中にデータ容量が600kB以上となった場合、および本体メモリーの容量が不足している場合は、右記の画面が表示され、↵(決定)キーを押すとデータが保存されます。



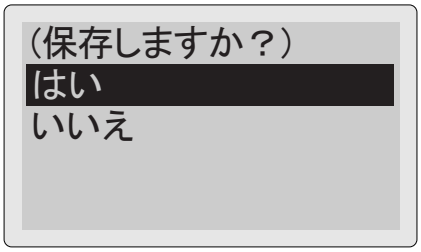
⑤右記のメニュー画面で“データ保存”を選択し、↵(決定)キーを押すと、⑥の画面が表示されます。
“印刷”を選択し、↵(決定)キーを押すと、P42⑧の画面が表示されます。
※本体メモリーの容量が不足している場合、“データ保存”は表示されません。

⮌(戻る)キーを押すと④の画面へ戻ります。

※レディネスコード／データモニタの保存データは、PCデータセーバー専用のファイル形式のため、本体で再表示することはできません。
PCデータセーバーをダウンロードし、PC接続(P48参照)のうえデータをご確認ください。

PCデータセーバー画面

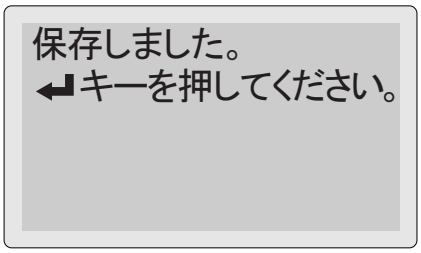
⑥はいを選択：P42⑦の保存終了画面へ進む
いいえを選択：保存せずに⑤のメニュー画面へ戻る



グローバルOBDⅡ

⑦はいを選択すると右記の画面が表示され、データの保存が終了します。

↵(決定)キーを押すと⑤のメニュー画面へ戻ります。

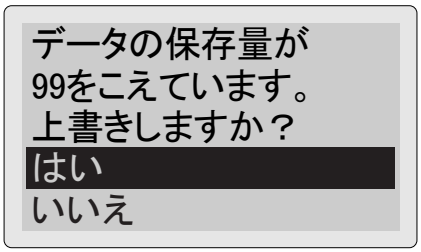


保存データが99件を超えていた場合

保存データが99件を超えていた場合、右記の画面が表示されます。

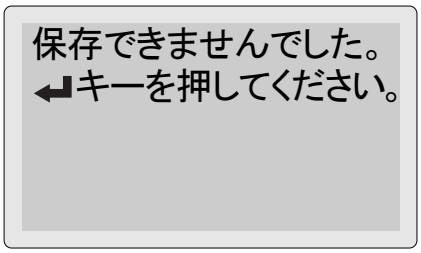
はいを選択：最も古いデータを上書し、⑦の保存終了画面へ進む

いいえを選択：P41⑤のメニュー画面へ戻ります



保存異常が発生した場合

保存異常が発生した場合は、右記の画面が表示されます。↵(決定)キーを押すと、P41⑤のメニュー画面へ戻ります。



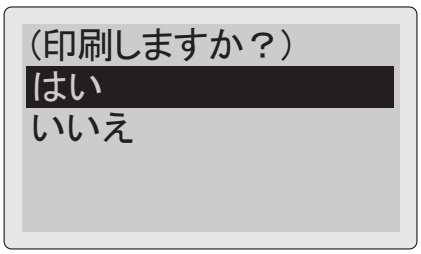
⑧P41⑤のメニュー画面で“印刷”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記の画面が表示されます。

はいを選択：本体上部のプリンターから出力されます

いいえを選択：P41⑤のメニュー画面へ戻ります

※印刷に関する注意事項は、P18“3.DTC(故障コード)の印刷”の内容をご参照ください。

※印刷が終了すると、P41⑤のメニュー画面へ戻ります。

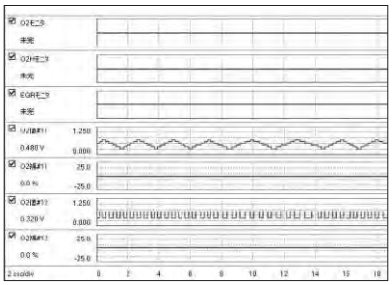


グローバルOBDⅡ

データモニタ/レディネスコード保存機能

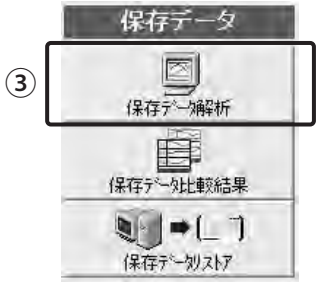
保存を選択されるまでの時間データと測定値データを断続的に記録するデータロガー機能として働きます。

保存したデータはデータ表示用のPCデータセーバーを用いて数値データやグラフとしてPC上に表示させることが可能です。



PCデータセーバーでの表示方法

①HCK-DMZの保存データをパソコンに保存します。
②PCデータセーバーを起動します。
③保存データ解析を選択します。
④ファイルの場所を①で保存した場所に変更します。
⑤ファイルの種類を（*.txt）に変更します。
⑥表示させたいファイルを選択します。

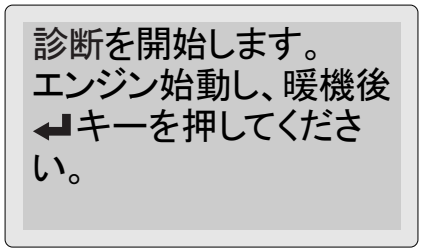


エンジンシステム診断

エンジンシステム診断は、グローバルOBDⅡ通信のみの対応となります。

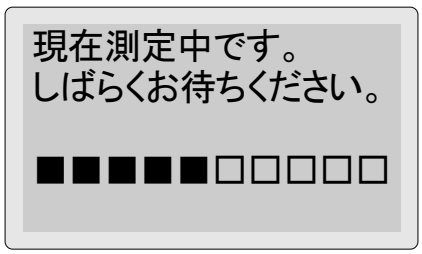
1. エンジンシステム診断表示

①P13⑤のメニュー画面で“エンジンシステム診断”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記の画面が表示されます。
エンジンを始動し、暖機後↵(決定)キーを押してください。

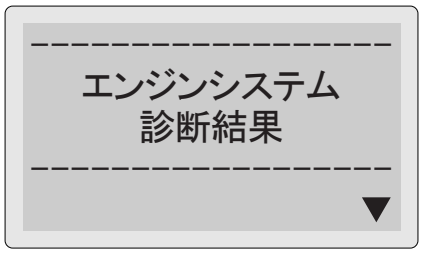


⮌(戻る)キーを押すとP13⑤のメニュー画面へ戻ります。

②通信が開始し、右記の画面が表示されます。
通信中は黄色LED(LINK)が点滅します。



③通信が終了すると、右記の診断結果画面が表示されます。▽(下スクロール)キーを押して診断結果を確認してください。



⮌(戻る)キーを押すとP13⑤のメニュー画面へ戻ります。

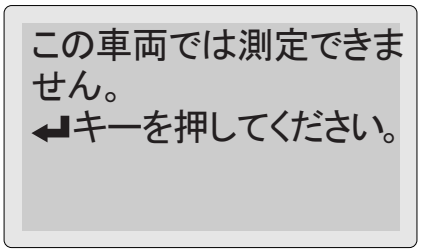
⚠注意

●本機能の参考値および診断結果はあくまでも参考情報です。自動車および部品の性能を保証するものではありません。
また、診断結果から生じた損害に関していかなる責任も負わないものとします。

エンジンシステム診断

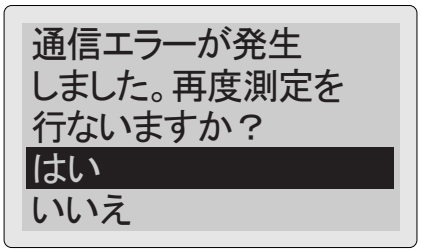
測定不可の場合

対応していない車両の場合、右記の画面が表示されます。↵(決定)キーを押すとP13⑤のメニュー画面へ戻ります。



通信異常の場合

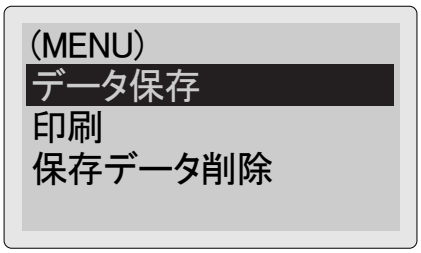
通信を中断し、右記の画面が表示されます。
はいを選択：再度通信を開始します。
いいえを選択：P13⑤のメニュー画面へ戻ります。



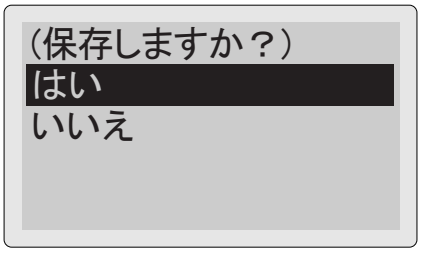
2. データ保存

①P44③の診断結果画面で、MENU(メニュー)キーを押すと、右記のメニュー画面が表示されます。
“データ保存”を選択し、↵(決定)キーを押してください。

> ⮌(戻る)キーを押すとP44③の診断結果画面へ戻ります。



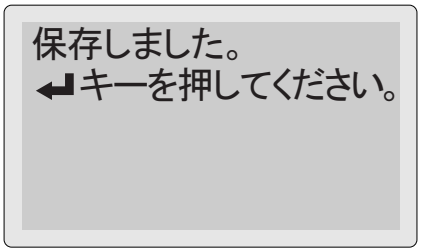
②右記の画面が表示されます。
はいを選択：P46③の保存終了画面へ進む
いいえを選択：保存せずに①のメニュー画面へ戻る



エンジンシステム診断

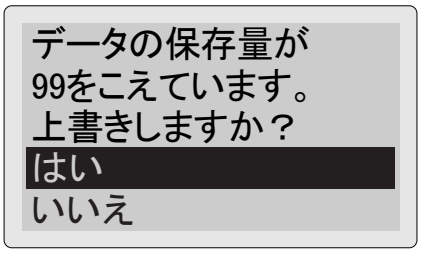
③はいを選択すると右記の画面が表示され、データの保存が終了します。

↵(決定)キーを押すとP45①のメニュー画面へ戻ります。



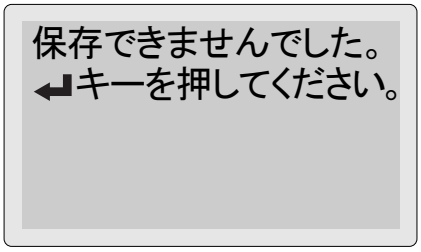
保存データが99件を超えていた場合

保存データが99件を超えていた場合、右記の画面が表示されます。
はいを選択：最も古いデータを上書し、上記③の保存終了画面へ進む
いいえを選択：P45①のメニュー画面へ戻ります



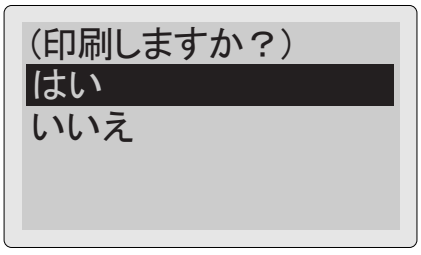
保存異常が発生した場合

保存異常が発生した場合は、右記の画面が表示されます。↵(決定)キーを押すと、P45①のメニュー画面へ戻ります。



3. 印刷

①P45①のメニュー画面で“印刷”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記の画面が表示されます。
はいを選択：本体上部のプリンターから出力されます
いいえを選択：P45①のメニュー画面へ戻ります



※印刷に関する注意事項は、P18“3.DTC(故障コード)の印刷”の内容をご参照ください。
※印刷が終了すると、P45①のメニュー画面へ戻ります。

エンジンシステム診断

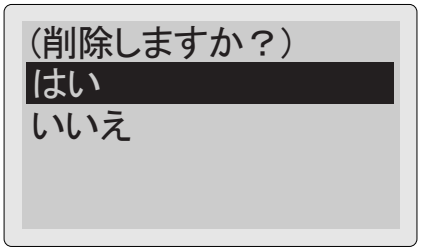
4. 保存データ削除

①P45①のメニュー画面で“保存データ削除”を選択し、↵(決定)キーを押すと、右記の保存データー覧画面が表示されます。削除したいデータを選択し、↵(決定)キーを押してください。

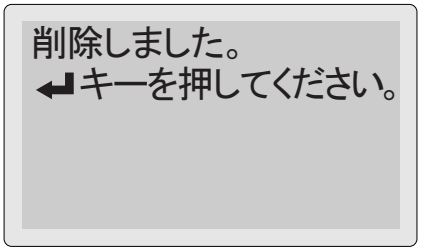
※保存データが無い場合は、画面に“保存データはありません”と表示されます。

↩(戻る)キーを押すとP45①のメニュー画面へ戻ります。

②右記の画面が表示されます。
はいを選択：③の削除終了画面へ進む
いいえを選択：削除せずに①の保存データ一覧画面へ戻る



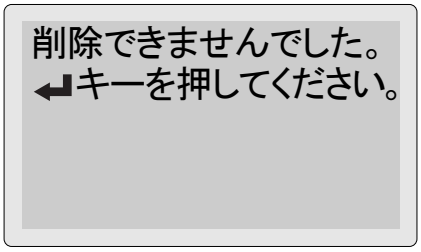
③はいを選択すると右記の画面が表示され、データの削除が終了します。



↵(決定)キーを押すと①の保存データー覧画面へ戻ります。

削除異常が発生した場合

削除異常が発生した場合は、右記の画面が表示されます。↵(決定)キーを押すと、①の保存データー覧画面へ戻ります。

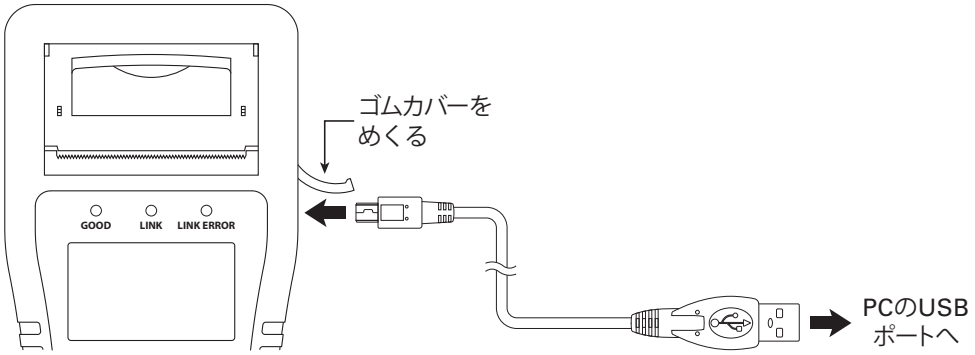


PC接続

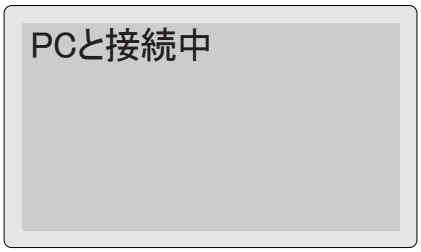
1. 診断データをPCで利用

付属のUSBケーブルでPCと接続し、診断データをテキストデータとして利用できます。

①本体右側面のUSB端子に、付属のUSBケーブルを差し込んでPCと接続します。



②電源がON状態のPCと接続すると本体の電源が自動でONになり、起動画面表示後、右記の画面が表示されます。



※PCとの接続が完了すると、大容量記憶装置デバイス（Hitachi HCK-DMZ USB Device）として認識されます。

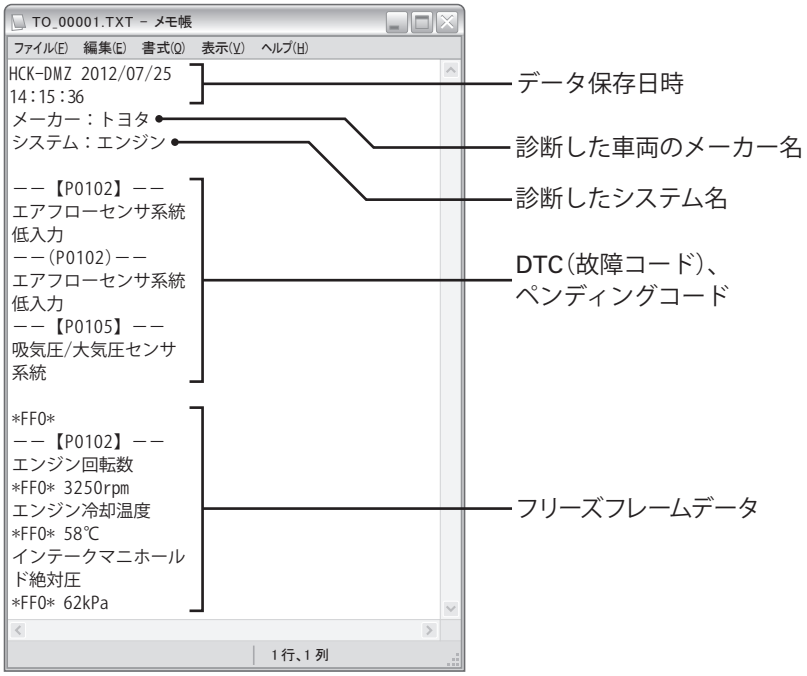
⚠ 注意　●USBケーブルを抜く際は、PC側からUSBの取り外しを指示してから抜いてください。故障の原因となります。

PC接続

③PC側からの操作で本体のメモリーにアクセスします。保存データの形式はテキストファイルになります。
※ファイル名についてはP22“ファイル名の構成”をご参照ください。

④データをPCに保存します。

■保存データの例



⑤USBケーブルを抜く際は、PC側からの操作でUSBの取り外しを指示してから抜いてください。

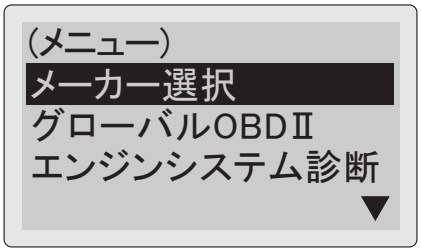
PC接続

2. パススルー機能

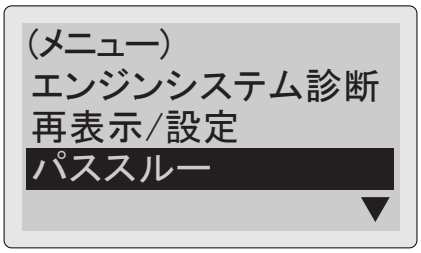
PCの診断アプリケーションを使用し、より高度な診断を行なうことが可能です。

①DLC（車両側コネクター）にOBDⅡコネクターを差し込むと、本体の電源が自動でONになり、起動画面表示後、右記のメニュー画面が表示されますので、**車両のイグニッションキーをONにしてください**。

※エンジンを始動しないでください。本体が正常に動作しません。



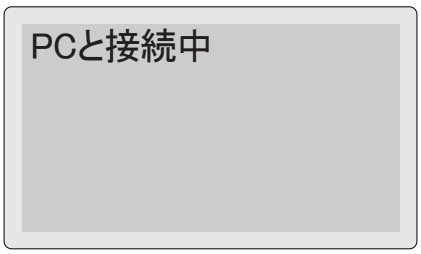
②本体右側面のUSB端子に、付属のUSBケーブルを差し込んで、電源がON状態のPCと接続します。本製品がPCを認識するとメニュー画面の項目に“パススルー”が追加されます。“パススルー”を選択し、↵（決定）キーを押してください。



③右記の画面が表示されますので、PC側のパススルー操作アプリケーションを起動してください。

※車両に接続する前にUSB接続をすると、右記の画面が表示されます。この状態でDLC（車両側コネクター）にOBDⅡコネクターを差し込み、PC側のパススルー操作アプリケーションを実行しても、パススルー機能を行なうことができます。

※パススルー操作アプリケーションのダウンロードおよび操作方法は、P57記載のURLにアクセスし、関連ページへおすすみください。



印刷例

■DTC(故障コード)

故障コードチェック

お客様名：　　様

診断日時　2012/05/09　10:33

【現在コード】
P0010　バリアブルタイミングコントロール(VTC)油圧バルブ回路異常
P0011　VTC(吸気側)B1
U1000　CAN通信系
P0219　整備マニュアルを参照してください。

【過去コード】
P0113　吸気温度センサ　電圧高い

【仮コード】
P0102　エア フローメータ　電圧低い

■フリーズフレームデータ

フリーズフレームデータチェック

お客様名：　　様

診断日時　2012/05/09　10:33

FF1
――【P0011】――

フリーズフレームコード
FF1
燃料システム　バンク1
FF1　モード　2
計算負荷
FF1　11［%］
水温
FF1　0［℃］
車速
FF1　110［km/h］
パルス幅
FF1　21.2［ms］
スロットル開度
FF1　52.50［%］

■レディネスコード

レディネスコードチェック

お客様名：　　様

診断日時　2012/05/09　10:33

DTC数：5
MIL状態：ON
燃料モニタ：未完
O2モニタ：完

■データモニタ

データモニタチェック

お客様名：　　様

診断日時　2012/05/09　10:33

燃料系1：OPEN初期
負荷計算値：20.0%
車速：100km
吸気温度：30℃

印刷例

■エンジンシステム診断

エンジンシステム診断結果

お客様名：　　様

診断日時　2012/05/09　10:33

BAD

故障コードが検出されました。
エンジン関連部品の異常または、
回路の断線、短絡が起きている
可能性がありますので、整備が必要
です。

故障コードチェック

P0123　エアフローセンサ系統
*その他コードあり

エンジンコンディションチェック

【エンジン回転数】
○参考値：500～1000rpm
◇実測値：850rpm
判定：正常

【空燃比補正】
○参考値：－20～20、80～120%
◇実測値：60%
判定：注意

【水温】
○参考値：70～110
◇実測値：－
判定：－

【バッテリー電圧】
○参考値：9.0～15.5
◇実測値：14.5V
判定：正常

【燃料系の状態】
判定：正常

本シートの参考値および診断結果は
あくまでも参考情報です。自動車
および部品の性能を保証するもので
はありません。また、診断結果から
生じた損害に関していかなる責任も
負わないものとします。

担当者：

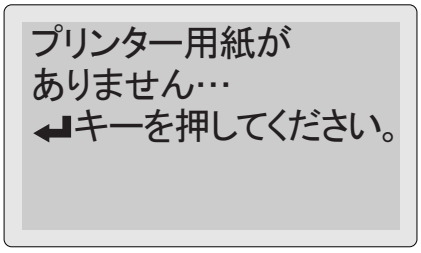
⚠注意

●本シートの参考値および診断結果はあくまでも参考情報です。自動車および部品の性能を保証するものではありません。
また、診断結果から生じた損害に関していかなる責任も負わないものとします。

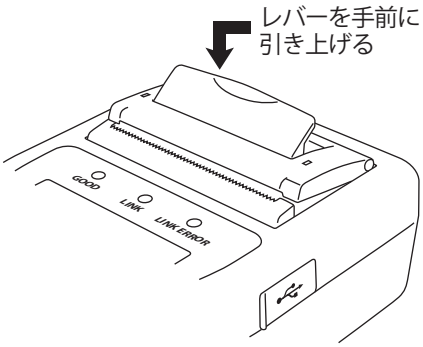
保守管理

1. プリンター用紙のセット

プリンター用紙の残りが少なくなっている、または入っていない場合、右記の画面が表示されます。下記の手順でプリンター用紙をセットしてください。

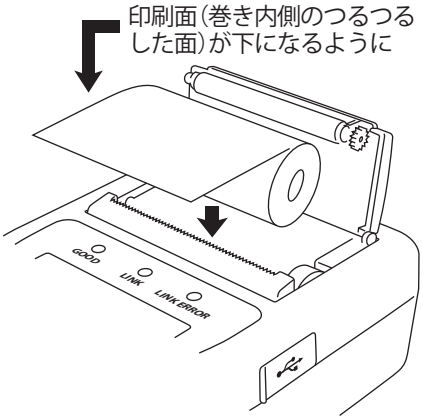


①右図のようにプリンターレバーを手前に引き上げてください。プリンターカバーが浮き上がります。
※プリンターレバー、プリンターカバーに無理な力を加えないでください。故障および破損の原因となります。



②プリンターカバーを開いて、古いプリンター用紙が残っている場合は取り除きます。新しいプリンター用紙は包装紙から取り出します。

③新しいプリンター用紙の端をとめているシールを剥がします。右図のように端を引き伸ばして、必ず印刷面(巻き内側のつるつるした面)が下になるようにセットします。



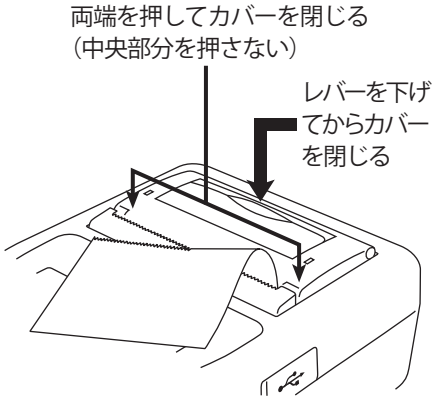
⚠ 注意

- ●プリンターレバー、プリンターカバーに無理な力を加えないでください。故障および破損の原因となります。
- ●プリンター用紙は必ず印刷面(巻き内側のつるつるした面)が下になるようにセットしてください。逆にセットした場合、印刷できません。

保守管理

④プリンターレバーを下げ、プリンター用紙の引き伸ばした部分をはさむようにプリンターカバーを閉じます。余分なプリンター用紙を手前に引くようにして切り取ります。

※プリンターカバーを閉じる際は、プリンターカバーの両端を押してください。中央部分を押すと故障および破損の原因となります。



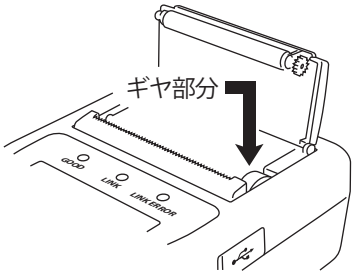
●必ずプリンターレバーを下げてからプリンターカバーを閉じてください。故障および破損の原因となります。

●プリンターカバーを閉じる際は、プリンターカバーの両端を押してください。中央部分を押すと故障および破損の原因となります。

●プリンター用紙は、直射日光の当たる場所、温度および湿度の高い場所で保管しないでください。変色の原因となります。

⚠ 注意

●プリンター用紙のセット時に、プリンター内部にゴミが入らないようご注意ください。内部にゴミが入りますと、動作不良の原因になります。特にギヤ部分にゴミが侵入しますと、プリンターが動かなくなります。



保守管理

2. リムーバブルディスクの初期化

> ⚠ 注意　●リムーバブルディスクを初期化すると、保存されている全てのデータが消去されます。

①本体右側面のUSB端子に、付属のUSBケーブルを差し込んでPCと接続します。

②PC側からの操作で、認識されたリムーバブルディスクを選択し、クイックフォーマットを実行します。

クイックフォーマットを実行する →

③クイックフォーマットが終了しましたら、USBケーブルを抜いてください。
※PC側からの操作でUSBの取り外しを指示してから抜いてください。

3. その他

●OBDⅡコネクターの端子が汚れた場合、やわらかい布でふき取ってください。汚れが付いている状態では正確な測定ができない場合があります。

●本体内に日付／時刻設定のバックアップ用電池が内蔵されています。この内蔵バックアップ電池は消耗品となります。日付／時刻設定を行っても、設定が保存されない場合は内蔵バックアップ電池が消耗していますので、販売店に修理依頼してください。

故障かな？という場合に

故障かな？という場合には、以下の症状、原因と処置をご参照ください。
本製品について、わからない点やご質問、故障の場合は、お買い上げの販売店または(株)日立オートパーツ＆サービスにお問い合わせください。

症　状	原 因 と 処 置
電源が入らない	●OBDⅡコネクターまたはUSBケーブルが奥までしっかりと差し込まれていない。 → 奥までしっかりと差し込んでください。
データ保存・表示・削除ができない	●システムエラーが発生している。 → リムーバブルディスクを初期化してください。 （P55 “2. リムーバブルディスクの初期化” を参照）
DTC(故障コード)の消去ができない	●故障個所の不具合が解決されていない。 → 故障個所の再点検を行ってください。
プリンターが印字されない	●プリンター用紙が逆にセットさせている。 → 正しくセットしてください。（P53 “1. プリンター用紙のセット” を参照） ●紙詰まりが起きている。 → プリンターカバーを開き、用紙を引き出してください。
日付/時刻設定が保存されない	●内蔵バックアップ電池が消耗している。 → 内蔵バックアップ電池は消耗品となりますので、販売店に修理依頼してください。

ホームページのご案内

株式会社 日立オートパーツ＆サービスのホームページより、ダイアグチェッカー（型式：HCK-DMZ）の製品情報閲覧やバージョンアップ用プログラムデータファイルをダウンロードすることができます。以下のURLにアクセスし、関連ページへおすすみください。
注意：PC用診断アプリケーションに関する内容およびバージョンアップ情報については、
2012年7月20日より専用サイトを開設予定です。

1. 株式会社 日立オートパーツ&サービス ホームページ URL
   http://www.hitachi-autoparts.co.jp

2. ダイアグチェッカー（型式：HCK-DMZ）製品ページ URL
   http://www.hitachi-autoparts.co.jp/products/hck/hck_dmz.html

   （1）製品情報
   製品情報の閲覧や取扱説明書（pdf）などのダウンロード/印刷が可能です。

   （2）バージョンアップ
   本体に内蔵されているソフトおよび別売のPC用診断アプリケーションのアップグレードが可能です。該当ページへアクセスし、希望する内容をご確認ください。

その他、製品に関する最新情報やバージョンアップ情報をホームページ上にてご案内いたします。定期的にメンテナンスを実施いたしますので、詳細につきましてはホームページにてご確認ください。

保証規定

保 証 規 定

1. 取扱説明書などの注意書に基づくお客様の正常なご使用状態のもとで保証期間内に万一故障した場合、無料にて故障箇所の修理をさせていただきますので、お買い上げの販売店に本保証書を添えてお申し出ください。
2. 本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については弊社はその責任を負わないものとします。
3. 不当な改造については弊社は一切の責任を負わないものとします。
4. 修理品のご持参、お持ち帰りの交通費、または送付される場合の送料および諸掛りはお客様のご負担となります。なお、ご送付の場合は適切な梱包のうえ、紛失防止のため受け渡しの確認できる手段（簡易書留や宅配など）をご利用ください。
5. 次のような場合には、保証期間内でも保証の対象となりません。
   （1）本保証書のご提示がない場合。
   （2）本保証書にシリアルNo、お買い上げ日、販売店名、販売店印などの記入捺印のない場合、または字句を書き替えられた場合。
   （3）お客様による輸送、移動時の落下、衝撃など、お客様の取り扱いが適切でないために生じた故障および損害。
   （4）お客様による使用上の誤り、各構成部品の紛失、あるいは修理による故障および損害。
   （5）火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損害。
   （6）本製品に接続している弊社指定以外の機器および消耗品に起因する故障および損害。
   （7）離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合、出張に要する実費を申し受けます。
6. 消耗部品（プリンター用紙など）やUSBケーブルの破損は保証の対象外となります。
7. ご不明の点は、お買い上げの販売店にご相談ください。
8. 本保証書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
9. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

（This warranty is valid only in Japan.）

保証書

持込修理

保　証　書

本保証書は、前記保証規定内容により無料修理を行うことをお約束するものです。
お買い上げの日から下記保証期間内に万一故障が発生した場合は、本書を提示のうえお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
本書の再発行は行いませんので紛失しないように大切に保管してください。

品　　名		ダイアグチェッカー		
機 種 名		HCK-DMZ	Serial No.	
保証期間		お買い上げ日より1年(本体)		
		お買い上げ日：　　年　　月　　日		
お客様	お名前	様		
	ご住所	〒		
	お電話	TEL		
販売店	店　名 住　所 電　話			

販売店様へ

本保証書はお客様へのアフターサービスの実施と責任を明確にするものです。
贈答品、記念品の場合も含めて必ず記入捺印してお客様にお渡しください。

販売元　**株式会社 日立オートパーツ＆サービス**
〒210-0011 神奈川県川崎市川崎区富士見1-6-3

製造元　**カイセ株式会社**

お問い合わせ先

本製品について、わからない点やご質問、故障の場合は、お買い上げの販売店または（株）日立オートパーツ＆サービスにお問い合わせください。

株式会社 日立オートパーツ＆サービス

北海道支店	TEL：011-271-1521（代） 〒060-0031　札幌市中央区北一条東12-22-41
東北支店	TEL：022-303-2150（代） 〒981-0967　仙台市青葉区山手町11-50 コアライフ山手 1F
東京支店	TEL：03-3527-6432（代） 〒135-0062　江東区東雲2-10-14
中部支店	TEL：052-703-2211（代） 〒465-0093　名古屋市名東区一社4-177
関西支店	TEL：06-6451-8860（代） 〒553-0003　大阪市福島区福島7-15-26 大阪YMビル 12F
中国支店	TEL：082-232-6331（代） 〒733-0012　広島市西区中広町3-20-5
九州支店	TEL：092-431-7261（代） 〒812-0888　福岡市博多区板付1-12-5

Memo

70-1165-HDMZ-1 1207